

AGU 青山学院大学 NEWS No.42

AGUニュース第42号
[2008年6月～7月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111 (代表)
URL: <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

2009年4月、 新学部と新学科が誕生します。

「教育人間科学部」(設置計画中)

経営学部「マーケティング学科」(開設計画中)

青山キャンパス再開発にともなう 大学A棟(仮称)建設計画

TOPICS

2008年度一般入学試験・センター利用入学試験結果

報告・お知らせ

2008年度新役職員紹介

2008年度新任専任教員紹介

2007年度学生表彰

2007年度体育会優秀団体・選手表彰

誌上公開講座

青山スタンダード フレッシュャーズ・セミナー
「ルールをかたる」

INFORMATION

2008年度進学相談会開催日程

2008年度オープンキャンパス

2009年4月、 新学部と新学科が誕生します。

新しく誕生する「教育人間科学部」〔設置計画中〕は、文学部を改編、教育学科と心理学科とが独立し、一体となって立ち上げられる新学部です。（2009年度、文学部第二部教育学科は募集停止予定）
さらに経営学部では、新学科「マーケティング学科」〔開設計画中〕を新設。
2009年4月、青山学院大学は、また新しい未来への一歩を踏み出します。

新学部

（設置計画中）

教育人間科学部

「教育」と「心理」との相乗効果により、
理論と実践力を兼ね備えた
人材育成を目指します。

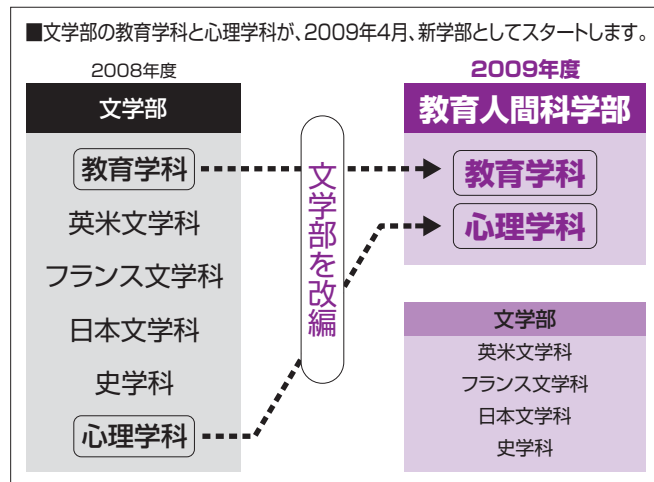
教育人間科学部誕生までの背景

文学部の大きな改編は、6番目の学科として
心理学科が開設された2001年以来ですね。

西澤 そうですね。ただし心理学科の分野は、もともと教育学科の専修コースとして2001年以前からも本格的に取り組んでいましたので、実質は1968年に5番目の学科として開設された史学科以来、「文学部40年振りの大改革」と呼べるかもしれません。

文学部に設置された6つの学科は、各学科ごとに理念・教育目標を持っており、それぞれが独立した存在であったといえます。しかし、バラバラでまとまりがないかといえば決してそうではなく、そのアプローチ方法は異なりながらも、“人間について学ぶ”という深い部分でつながっていました。そのため情報の交換や共有も活発に行っていました。

今回の新学部設立は、文学部内でじっくり時間をかけて考えた末に出した答えです。時代の流れを背景に、単に教育学科と心理学科の独立が、“1+1=2”以上の効果があると判断しました。



教育学科と心理学科が文学部から独立するに至った
経緯を教えてください。

池田 西澤学部長からも話がありましたが、「人間」について探究する文学部では、これまで広い意味での伝統的な人文的研究方法を基盤としてきました。しかしながら時代の変化とともに、理論と実践を向上的に繰り返す研究方法を特質とする“教育・心理系”の学問分野は、“文学・歴史系”分野とは区分されることが自然であるとの考えが一般的になりつつあり、新学部設立への動きが具体化したのです。

西澤 特に心理学は、近年、医療や生命科学など理系分野との関わ



文学部長
西澤 文昭



教育人間科学部設置準備室長
池田 稔

りが広がってきていますので、確かに文学部の括りのままでは、受験生を混乱させる可能性も今後出てくるかもしれません。“教育・心理系”学部としての教育人間科学部、“文学・歴史系”学部としての文学部へと改編することにより、それぞれの学部の一貫性・一体性を明確にできると考えています。

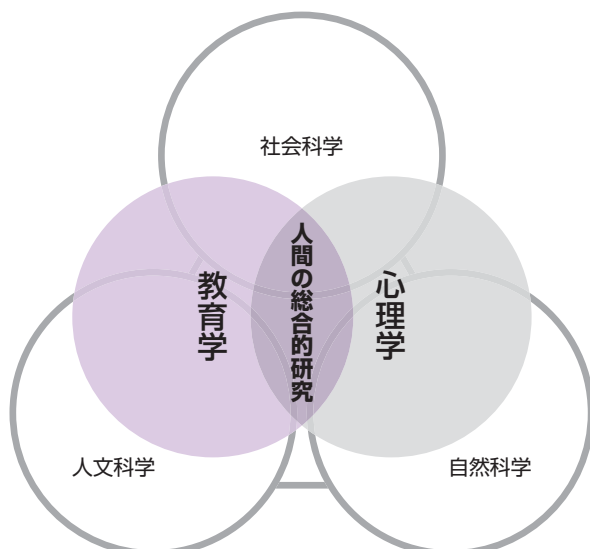
池田 教育学科と心理学科が一体となって新学部が形成されることは、元来、心理学科が教育学科の専修コースのひとつであったことから自然な流れだったといえます。一体感をもって教育目標・人材養成の目標を追求してきた背景もありますし、両学科が教育人間科学部として、ひとつの学部に改編されることは、お互いの教育力をより一層強化することにつながるはずです。新しい教育人間科学部の誕生は、“教育・心理系”の教育・研究に大きな可能性を広げることにつながります。

新学部の学びの特色

教育人間科学部の大きな特色は何ですか。

池田 新学部の特色は、これまで教育学科と心理学科が、それぞれの立場で探究してきた人間の成長・発達、心理などに関する哲学的、思想的、理論的な研究とその応用の成果をさらに発展させられることだと思います。例えば教育学的には、主として子どもや青少年が学問の対象となりますが、そこに心理学的要素が加わることで、その研究対象を臨床学的に乳幼児から高齢者までの一生涯に広げることが可能です。結果として多様な科目履修ができ、学生は幅広い領域を

■教育学と心理学を“核”として、学際的人間研究を目指します。



学べる環境が整えられ、それがさまざまな視点から人間を考察することのできる、質の高い能力の習得につながります。

また、両学科の学問の提携で、理論の知と実践の知を“協働の知”としてさらに深化拡大することが可能です。ここから新学部の目指す人材育成の方向性が見えてきます。つまりは、学問的叡智と臨床的実践力を兼ね備え、本学の建学の精神である「地の塩、世の光」たらしめる気概をもち、現代社会の複雑な諸問題の解決に果敢に挑戦し、社会の要請に応え貢献できる高度な専門性を有する人材の育成を目指します。

西澤 「教育」と「心理」との良い意味での相乗効果が期待できるわけですね。ふたつの学科共通の学びのキーワードとなる「発達」「臨床」「人間性探究」「認知」「情報」などについては、両学科それぞれに関連する科目が豊富に設置されています。このように両学科は研究分野が近いと、教員同士の研究交流、あるいは学生同士の学習研究における交流などにも期待したいと思います。

両学科の具体的な学びの特色を教えてください。

池田 教育学科では、2年次後期から「人間形成探究コース」「臨床教育・生涯発達コース」「教育情報・メディアコース」「幼児教育学コース」「児童教育学コース」の5つのコースに分かれて、学生の将来設計につながる理論的かつ実践的知識・技能を習得します。幼児教育学コースでは幼稚園教諭、児童教育学コースでは小学校教諭となるための学習も行います。他のコースでも教職課程関係科目を修得すれば、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の各種教員免許状を取得できるようになります。また、指定された科目を履修することで、司書、司書教諭、社会教育主事、学芸員の各種資格も取得できるよう申請しています。

一方、心理学科では、1・2年次に心理学の基礎的な知識・スキル・研究態度などの習得を中心に学びます。そして3年次以降では各自の関心に従って「臨床」「社会」「認知」「発達」の4つの分野から興味のある科目を選択し、それぞれの各論、理論研究へと進むとともに、4年次での卒業論文制作に備えます。卒業単位を履修することで(社)日本心理学会の「認定心理士」の資格を申請し、取得することも可能です。なお、教育人間科学部の設置に合わせて文学研究科の改組も同時に予定し、教育人間科学研究科(教育学専攻、心理学専攻)の設置を計画しており、「臨床心理士」についても、心理学専攻に進学して所定の課程を修了すれば、(財)日本臨床心理士資格認定協会の受験資格を取得することができるよう申請しています。



教育人間科学部 (設置計画中)

「教育」＋「心理」で広がる未来

教育人間科学部で学ぶ学生の 将来の進路について教えてください。

西澤 新学部とはいえ、教育学科と心理学科は、文学部としてこれまでに多くの優れた人材を社会に送り出してきた実績があります。そういう意味では、全くの新しい学部ではないので4年後の進路の不安はあまり感じていません。それどころか、学びの環境と同様に「教育」と「心理」との相乗効果が、将来の進路に対しても好影響を与えてくれるのではと、楽しみにしているほどです。

池田 学部長のおっしゃる通りです。特に教育学科では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教職界はもちろんのこと、教育・福祉・研究所関係、公務員・公的専門職関係、マスコミ・通信関係、金融・サービス関係など、これまでも幅広い業界に人材を輩出してきましたが、今後は心理学関係科目を学んだ教育学科の学生が、これまでになかつ

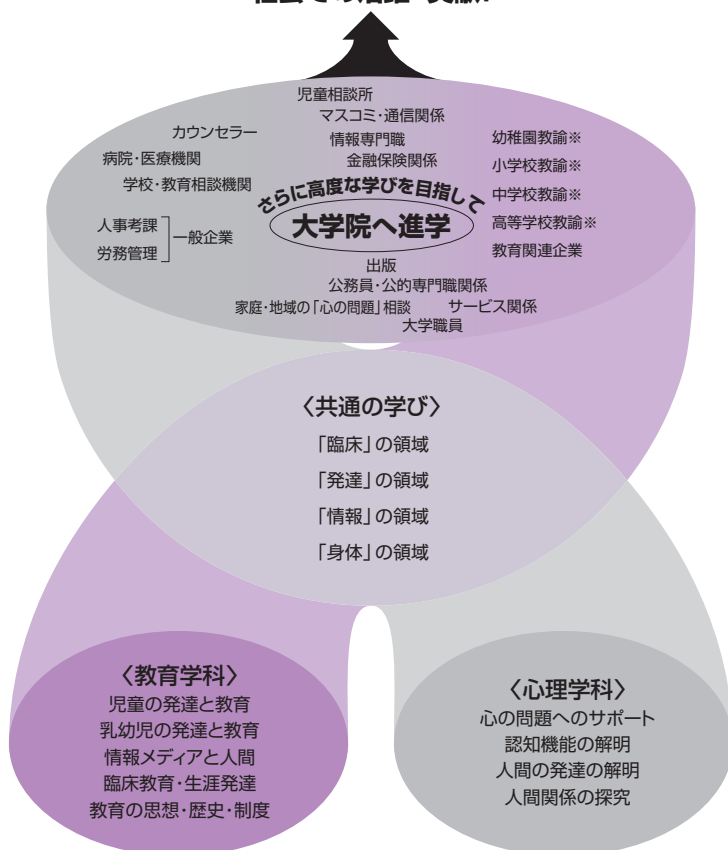
た専門職種に活躍の場を開拓するなど、より多彩に進路が広がる可能性があります。

心理学科では、専門職としてのカウンセラーに必要な臨床心理士資格の基礎課程を修得したうえで、資格取得を視野に入れた大学院前期課程に進学する道が開かれています。その他にも医療心理学、産業心理学、社会心理学、広告心理学など、応用範囲の広い学習を通して、多種多様な活躍の場を獲得できることでしょう。また、将来スクールカウンセラーを目指す学生であれば、教育学科の「生徒指導」「教育相談」「学校教育学総論」「臨床保育学」などの科目を履修することで、学校における現実の諸問題の理解に近づくこともできます。

このように新たな学際的人間研究を目指す「教育人間科学部」は、これまで青山学院大学の歴史が築いてきた自由と主体性を重んじる伝統を不易のものとして尊重しつつ、一方で社会の要請に応えるために変えるべきものは勇気をもって変革し、激変する社会に対して、優れた人材を育成することで貢献してまいります。

■「教育」と「心理」との相乗効果で、より実践的な人材を育成します。

社会での活躍・貢献!



※教員免許状は教育学科のみ取得可能

文学部と教育人間科学部との関係

今後の教育人間科学部と文学部との 連携について教えてください。

西澤 今回の教育人間科学部の設立を文学部の改編として考えた場合、教育学科と心理学科が独立した後の「新・文学部」についても触れないわけにはいきません。英米文学科、フランス文学科、日本文学科、史学科という「文学・歴史系」4学科構成となることは、純粋に人文系の学問を押し進めていく姿勢を見出しやすいことは確かです。しかしながら文学部は、このまま“守り”に入るつもりはありません。既に2010年度以降、新学科の設置を含め、さまざまな構想を打ち立てている段階にあります。青山学院大学でも最も古い歴史を誇る学部のひとつである文学部は、これまでも社会が求める学びのニーズに応えるべく柔軟な対応を続けてまいりましたが、今後もその積極的な姿勢を変えことなく、時代への挑戦を続けていくつもりです。新しい教育人間科学部はもちろん、生まれ変わる文学部にもぜひ注目してください。

なお、在学生については、引き続き現在のカリキュラムで学び、6学科を横断する科目履修によって、幅広い視野を養っていただきます。また、文学部教育学科の第二部に関しては、2009年4月から募集を停止する予定になっております。

新学部が設立されたからといって、もちろん、それまで連携を続けてきた文学部と教育学科、心理学科とのつながりがなくなるわけではありません。今後もお互いに連動しながら協力しあっていくことになります。2009年4月から新しい一歩を踏み出す両学部を温かく見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

経営学部マーケティング学科

経営学部「マーケティング学科」(開設計画中)を開設。
経営学科との2学科体制で、
より専門性の高い教育体系を構築します。



経営学部長
岩田 伸人

【マーケティング学科コンセプト】

グローバルに激動するビジネス競争社会の中にあって、
国々の多様な文化を理解したうえで、
独創的な発想やアイデアを提案し、
かつ世界の平和に貢献できる自律型人間の育成を目指します。

これまで「マーケティング」と呼ばれていたものは、どちらかといえば製造された商品、いわば形のあるものについての取り組みが中心でした。しかし、日々変動する現代のビジネス競争社会においては、文化的・情動的戦略といった“形のないもの”を売り込むためのマーケティングが求められています。経営学部では、最新の文化・情報が集積する「青山」という恵まれた立地環境を活かし、21世紀のマーケティングを実践的に学べる新学科「マーケティング学科」を2009年度よりスタートさせることになりました。

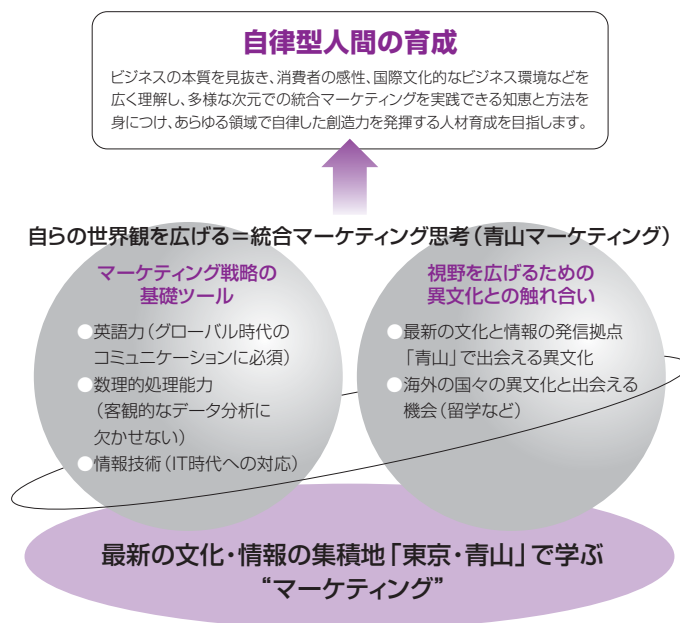
マーケティング学科の教育目標は、多様な文化の中にあっても物事の本質を見抜き、そこから新しいアイデアを創り出せる“自律型人間”を育てることです。世の中の環境が劇的に変動する現代社会では、自ら考え、自ら判断して行動にうつせる人材、そんな自律型人間こそが求められます。そのために必要な条件は自分の視野を広げること。青山学院大学には、“異文化”と触れ合える機会が充実しており、自らの世界観を広げるのに適しています。ここでの“異文化”にはふたつの意味があり、ひとつは新しい文化の集積・発信拠点である渋谷・青山というエリアから出会う異文化、もうひとつは文字通り外国企業や留学などで実際に体験できる海外の異文化です。こうした“青山ならではのマーケティング”とも呼べる独自の切り口によって、現代のビジネス競争社会が抱える諸問題の本質を見抜き、的確な判断力と時代を読むセンスを兼ね備えた人材を育てたいと考えています。

また、カリキュラムに関しても、グローバル時代のコミュニケーションに必須の「英語力」、客観的なデータ分析に欠かせない「数的処理能力」、IT時代に対応した「情報技術」など、マーケティング戦略の基本ツール

となる学びを、徹底して習得できるものを用意しました。もちろん教員陣には日本でも有数のマーケティング分野の第一人者が顔を揃える他、大手広告代理店をはじめとする現場のプロの方々を招いた特別講義も予定しています。さらに構想段階ではありますが、インターンシップ制度の拡充、特に海外へのインターンシップの可能性を探ったり、3年間である程度の単位を取得した学生には、4年生から大学院の科目履修が行え、5年間で修士課程を修了できる学部と大学院との一貫教育の制度を整備したりなど、学生自らが前向きに学べる教育環境を整えていくつもりです。

以上のように、経営学部マーケティング学科の知的基盤は、深い異文化理解や国際社会との関係を核とした“統合マーケティング思考”とし、あらゆる領域で自律した思考力を発揮できる人材を育成することで、他大学とは一線を画した未来社会に対応できる教育体制を目指します。

■マーケティング学科の概念図



●カリキュラムの流れ 1・2年次▶経営学科、マーケティング学科ともに共通の科目を学びます。経営学基礎共通科目(専門基礎科目、英語科目)／基幹科目
3・4年次▶マーケティング学科専門科目を中心に学びます。

●マーケティング学科専門科目(予定)

総合マーケティングコミュニケーション 広告論 メディア 関係性マーケティング ソーシャルマーケティング 文化産業マーケティングI・II 消費者行動論 ブランド・マネジメント マーケティングチャネル サービスマーケティング 国際マーケティング スポーツマネジメントI・II 統合マーケティング特論I～IV 商業英語 商業英語論 貿易商務論 損害保険論 国際貿易論I・II 交通論 金融市場論 市場システム論 現代日本産業史 リスク・マネジメント論I・II 社会情報ネットワーク論I・II 流通情報システム論 流通政策I・II 市場システム特論I～IV 経営と異文化理解 イギリス文化産業I・II 英語圏社会・文化研究I・II ユダヤ文化とビジネスI・II 韓国の経営文化I・II アメリカにおける音楽文化I・II 世界の言語文化I・II 国際ビジネス英語I・II 経営演習I・II(ゼミ)

青山キャンパス再開発にともなう 大学A棟（仮称）建設計画

現在、青山キャンパスでは、高等部校舎建て替えに次ぐ再開発の一環として、

青山学院記念館の西に、新校舎・大学A棟（仮称）を建設する計画を進めています。

この新校舎の誕生により、教育研究、学生生活、組織の運営において、

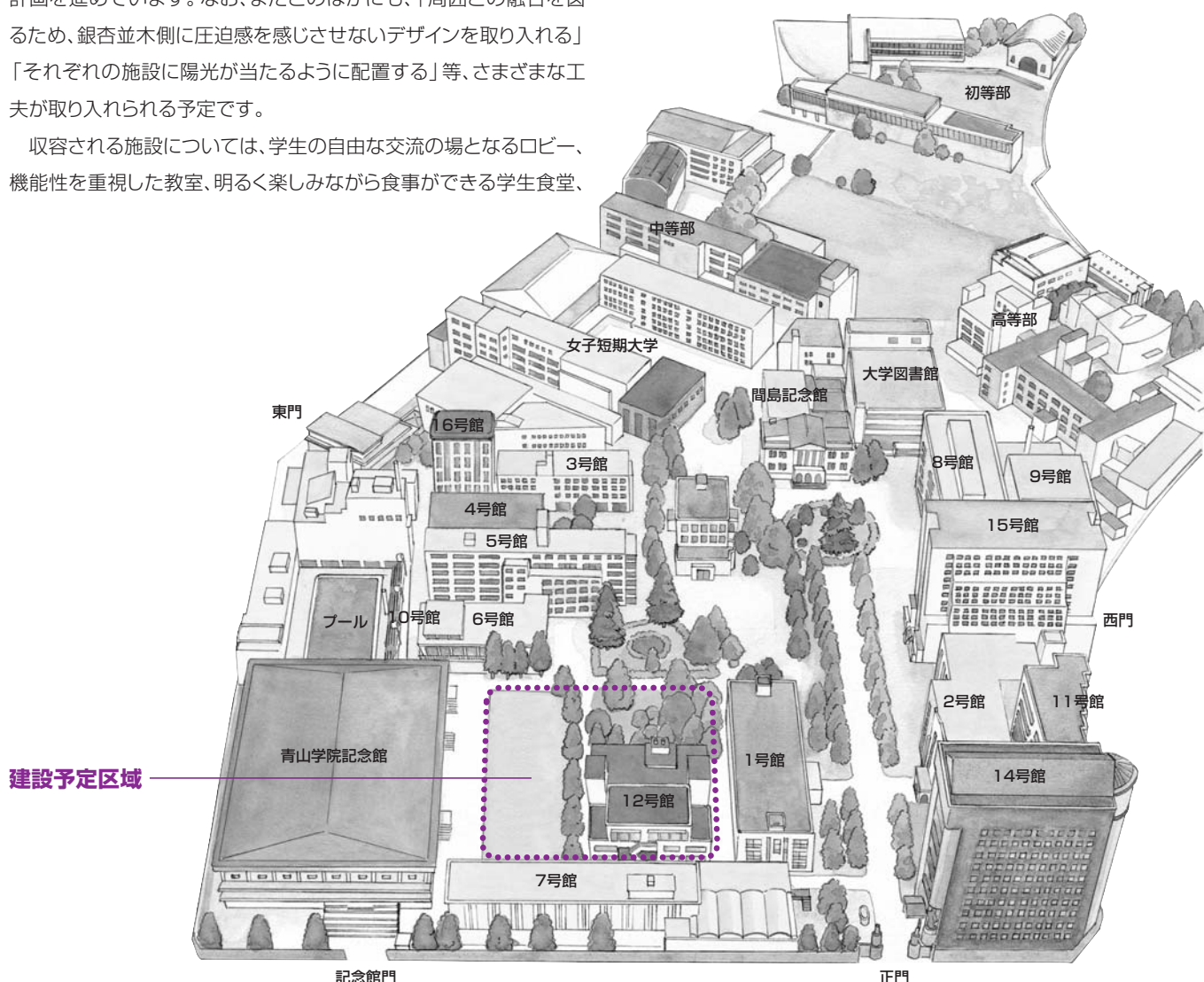
青山学院大学の拠点にふさわしい、より充実した環境が整備されます。

優れた機能性を備えた新校舎・大学A棟（仮称）が 新たに誕生します。

2011年後期に竣工予定の大学A棟（仮称）は、大学テニスコート、12号館、石坂ガーデンにまたがるおよそ3,500平方メートルの敷地に建設されます。大学A棟（仮称）の設計に際しては、耐震、防火、避難通路の確保などの安全性を第一としていることはもちろん、「大勢の学生が移動する機能を低層階に、ゼミ教室や研究室の機能を上層階に置く」など、建物全体の機能性や利便性に十分配慮しながら計画を進めています。なお、またこのほかにも、「周囲との融合を図るため、銀杏並木側に圧迫感を感じさせないデザインを取り入れる」「それぞれの施設に陽光が当たるように配置する」等、さまざまな工夫が取り入れられる予定です。

収容される施設については、学生の自由な交流の場となるロビー、機能性を重視した教室、明るく楽しみながら食事ができる学生食堂、

教学系の事務室が集約されるスチューデントセンター、その他を予定しています。スチューデントセンターの設置については、学生の利便性の向上だけでなく、より合理的な事務系組織の運営・改革が期待されます。このほかにも、法人執行部と大学執行部が隣接して設置されることにより相互が意思疎通しやすい環境が整うことや、院生研究室と教員研究室が近くなりさらにきめ細かな指導が実現できることなど、大学A棟（仮称）建設によるさまざまなメリットを想定しています。



12号館および7号館の一部の機能の移設について

Q 工事の概要を教えてください。

A 大学A棟(仮称)建設予定地にある12号館は2008年後期中に閉鎖され、撤去される予定となっています。それに先がけ、7号館を一部解体し工事車両の進入路を確保する工事がはじまります。また、これらの建物が収容する機能を補うため、代替となる機能の移設が実施されます。

Q 12号館の閉鎖にともなう教室数の縮小に対し、どのような対策を行いますか。

A 既存の教室の稼働率と占有率を改善して対応します。具体的には、1号館、2号館、4号館、6号館の教室にAV設備を配する等環境整備の計画を進めます。

Q 12号館にある厚生施設(購買会等)は、どうなるのですか?

A 学生のニーズが高い書籍とPC関連の商品の販売については、仮設の店舗で運営します。青学サービスの保険部、旅行センターなどは、学内施設の転用を予定しています。なお、1号館にトイレを設置する予定です。

Q 7号館にある部室はどうなるのですか?

A 建物の一部解体によりスペースが縮小されます。対策として、部室を収容する仮設プレハブの設置を計画しています。



現在の12号館付近
5号館よりのぞむ

新ガウチャー・ホールの発掘現場

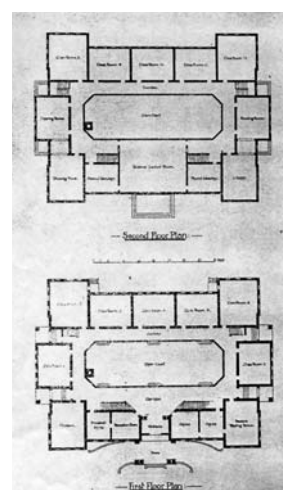
大学A棟(仮称)が建設される予定の大学テニスコート周辺で、着工に先立ち、文化財保護法に基づく埋蔵文化財調査の試掘が渋谷区教育委員会の指導のもとで行われ、江戸時代の遺構が残されていることが判明し、本格的な調査が実施されました。今回の調査では、江戸時代の松平左京太夫屋敷内の建物の遺構とともに、明治時代に校舎として使われていた「新ガウチャー・ホール」のレンガ積みの基礎が出土しました。

「新ガウチャー・ホール」は、1906(明治39)年に建設され、青山キャンパスの土地購入資金や校舎建設投資金などのために、多額の寄付をしてくださったジョン・F・ガウチャー博士の名前を冠しています。設計は、現在の日本聖公会聖アグネス教会(京都市)や遺愛学院本館(函館市)を手がけたアメリカ人のジェームズ・M・ガーディナーによるものです。新古典主義洋式のシンメトリーの建物は、当初中等科と高等科の校舎として使用されていましたが、1923年の関東大震災で2階部分が半壊したために、取り壊すこととなりました。

調査は今年の3月に終了し、青山学院では「新ガウチャー・ホール」の記念として、遺構から出土したレンガの一部の保存を検討しています。



▲大正10年頃の「新ガウチャー・ホール」



▲「新ガウチャー・ホール」設計図(1階)



▲発掘された遺構(1月30日撮影)

2008年度一般入学試験・ 大学入試センター試験利用 入学試験結果

2008年度の我が国の18歳人口数は、2007年度より約6万人減少し、124万人（－5%）となり、2008年度大学入試センター試験の志願者も昨年度より約1万人減少し、543,385人（－1.8%）となりました。

少子化の進む中、2008年度の本学入学試験においては、経済学部第二部経済学科と経営学部第二部経営学科で学生募集を停止し、国際政治経済学部の設置以来となる2つの新学部『総合文化政策学部』『社会情報学部』と経済学部の新学科『現代経済デザイン学科』で新規に学生募集を行いました。また、国際政治経済学部では「学科同時エントリー方式」、法・理工学部では「センタープラス方式」など新しい入試方式を導入しました。このような大規模な改革を実施した結果、一般入学試験と大学入試センター試験利用入学試験の志願者総数は、47,210名となり、昨年度の志願者総数と比べ、1,660名の志願者増となりました。

《一般入学試験》

2008年度一般入学試験における志願者数は、昼間部が35,062名（昨年度＋853名）、第二部（夜間部）が925名（昨年度－1,410名）、合計35,987名（昨年度－557名）となり、減少となりました。これで2003年度入学試験から一般入学試験の志願者数は、5年連続で減少したこととなります。昼間部全体としては昨年を上回りましたが、新学部・新学科効果による志願者の大幅増とはなりません。一因として、人文・社会科学系の既存学部（文・経済・法・経営）の志願者数が大幅ダウンし、代わりにそれらの志願者層が新設の総合文化政策学部に移ったことがあげられます。

文学部史学科は昨年と同数の志願者を集め、6年連続の志願者減は免れたものの、国際政治経済学部国際政治学科では5年連続の志願者減となっています。

《大学入試センター試験利用入学試験》

大学入試センター試験利用入学試験（前期日程）においては、文学部フランス文学科・史学科、経済学部現代経済デザイン学科で新規に募集を行った他、法学部においては3教科型を新たに導入し、前期日程の全学部合計で、1,575名の志願者増となりました。また、2008年度より新しく大学入試センター試験利用入学試験（後期日程）を実施し、法・経営・国際政治経済・理工の4学部で642名の志願者を集めました。

2009年度は、文学部第二部教育学科において学生募集を停止（予定）し、新しく『教育人間科学部』を設置（予定）する他、経営学部には『マーケティング学科』を開設（予定）することが計画されています。また、総合文化政策学部と社会情報学部では、新規に大学入試センター試験利用入学試験を実施します。広報入試センターでは、2008年度入学試験結果と2009年度入学試験の詳細を大学紹介パンフレット「進学案内」に掲載し、6月より全国の受験生に頒布いたします。

2008年度入学試験結果 一般入学試験

学部・学科		方式・募集人員		志願者	合格者	倍率	
文学部	教育学科	A	約75	1,691	256	6.3	
		B	約10	299	28	10.3	
		計	約85	1,990	284	6.7	
	英米文学科	A	約150	1,523	393	3.7	
		B	約40	622	145	4.0	
		計	約190	2,145	538	3.8	
	フランス文学科	A	約65	947	228	4.0	
		B	約10	72	19	3.6	
		計	約75	1,019	247	4.0	
	日本文学科	A	約75	910	※227	3.8	
B		約10	172	21	7.7		
計		約85	1,082	248	4.1		
史学科			約75	898	253	3.4	
心理学科			約75	859	193	4.3	
合計		約585		7,993	1,763	4.3	
経済学部	経済学科	A	約210	4,452	520	7.5	
		B	約50	952	135	5.9	
		計	約260	5,404	655	7.2	
	現代経済デザイン学科	A	約40	534	85	5.6	
		B	約30	327	68	4.3	
		計	約70	861	153	5.0	
合計		約330		6,265	808	6.8	
法学部	法学科	A	約80	922	※275	3.0	
		セ	約200	1,773	※567	2.8	
	合計		約280		2,695	842	2.8
経営学部	経営学科	A	約245	4,416	845	5.0	
		B	約30	295	75	3.7	
		C	約50	1,082	160	6.1	
	合計		約325		5,793	1,080	5.0
国際政治経済学部	国際政治学科	A	約50	900	156	5.0	
		B	約5	62	15	3.7	
		工	約5	*53	5	6.9	
		計	約60	1,015	176	5.0	
	国際経済学科	A	約40	701	79	8.0	
		B	約5	73	12	5.1	
		工	約5	*48	5	6.9	
		計	約50	822	96	7.7	
	国際コミュニケーション学科	A	約25	704	99	6.4	
		B	約13	224	26	7.5	
		工	約5	*47	8	6.9	
計		約43	975	133	6.5		
合計		約153		2,812	405	6.1	
総合文化政策学部	総合文化政策学科	A	約130	2,597	※310	8.1	
		B	約30	870	79	8.7	
	合計		約160		3,467	389	8.2
理工学部	物理・数理学科	A	約30	487	※183	2.5	
		B	約25	272	※123	2.0	
		計	約55	759	306	2.3	
	化学・生命科学科	A	約30	713	※230	2.9	
		B	約22	299	81	3.4	
		セ	約5	43	12	2.9	
		計	約57	1,055	323	3.0	
	電気電子工学科	A	約30	543	※184	2.8	
		B	約20	259	77	3.1	
		セ	約5	34	10	3.3	
		計	約55	836	271	2.9	
	機械創造工学科	A	約35	742	※190	3.8	
		B	約15	189	39	4.5	
		セ	約5	43	19	2.2	
		計	約55	974	248	3.8	
	経営システム工学科	A	約30	553	※151	3.5	
		B	約20	290	72	3.7	
		計	約50	843	223	3.6	
	情報テクノロジー学科	A	約20	369	119	2.9	
		B	約20	179	60	2.7	
セ		約5	39	20	1.8		
計		約45	587	199	2.7		
合計		約317		5,054	1,570	3.0	
社会情報学部	社会情報学科	A	約60	103	61	1.4	
		B	約60	709	301	2.3	
		C	約30	171	85	2.0	
	合計		約150		983	447	2.1
昼間部合計		約2,300		35,062	7,304	4.4	
文学部第一部	教育学科			約55	553	97	4.7
		A	約35	292	74	3.4	
		B	約20	80	41	1.7	
	計		約55		372	115	2.8
	合計		約110		925	212	3.7
	第二部(夜間部)合計		約110		925	212	3.7
	昼間部・第二部総合計		約2,410		35,987	7,516	4.4

セ：センタープラス方式 エ：学科同時エントリー方式

倍率＝受験者／合格者（ただし、国際政治経済学部 学科同時エントリー方式の倍率については、学科同時エントリー方式の総受験者／総合格者で算出）

*国際政治経済学部 学科同時エントリー方式の志願者は、各学科を第1志望とした者の数合格者に※印がある場合は、補欠を含みます。

大学入試センター試験利用入学試験《前期日程》

学部・学科			募集人員	志願者	合格者	倍率
文学部	フランス文学科		10	789	183	4.3
	史学科		5	728	113	6.4
	合計		15	1,517	296	5.1
経済学部	経済学科		10	516	187	2.8
	現代経済デザイン学科	3教科型	10	439	86	5.1
		4教科型	10	169	92	1.8
		計	20	608	178	3.4
	合計		30	1,124	365	3.1
法学部	法学科	3教科型	10	1,301	107	12.2
		4教科型	10	479	167	2.9
		計	20	1,780	274	6.5
経営学部経営学科			10	784	44	17.8
国際政治経済学部	国際政治学科	3教科型	13	755	138	5.5
		4教科型	5	178	58	3.1
		計	18	933	196	4.8
	国際経済学科	2教科型	10	427	81	5.3
		3教科型	8	820	57	14.4
		4教科型	10	552	102	5.4
		計	28	1,799	240	7.5
	国際コミュニケーション学科		9	535	62	8.6
	合計		55	3,267	498	6.6
理工学部	物理・数理学科		5	341	101	3.4
	化学・生命科学科		5	307	76	4.0
	電気電子工学科		3	529	82	6.5
	機械創造工学科		5	376	76	4.9
	経営システム工学科		5	257	91	2.8
	情報テクノロジー学科		5	299	100	3.0
	合計		28	2,109	526	4.0
総合計			158	10,581	2,003	5.3

《後期日程》

学部・学科		募集人員	志願者	合格者	倍率
法学部法学科		5	90	28	3.2
経営学部経営学科		5	83	6	13.8
国際政治経済学部	国際政治学科	3	96	9	10.7
	国際経済学科	3	174	35	5.0
	国際コミュニケーション学科	3	70	16	4.4
	合計	9	340	60	5.7
理工学部	物理・数理学科	3	34	13	2.6
	化学・生命科学科	3	27	8	3.4
	電気電子工学科	2	24	4	6.0
	機械創造工学科	2	23	6	3.8
	情報テクノロジー学科	3	21	5	4.2
	合計	13	129	36	3.6
総合計		32	642	130	4.9

広報入試センター『進学情報コーナー』に行ってみよう!

青山キャンパスの総合研究所ビル1階 広報入試センター内に、大学への進学に関するさまざまな情報を受験生のみなさんに提供する「進学情報コーナー」が設けられています。進学に関する質問はもちろんのこと、青山学院大学のさまざまな資料を閲覧したり、大学紹介ビデオなどを鑑賞することができますのでお気軽にご利用ください。開室時間は、平日9時～17時、土曜日9時～13時です（夏期休業期間等は開室日・時間が変更になることがあります）。グループ、学校単位での利用希望の場合は、予め広報入試センター広報課へお問い合わせください。

お問い合わせ先 TEL.03-3409-8626



出身高校別屋間部合格者数ランキング BEST 100

順位	（昨年度順位）	高校名	（○は私立高等学校）	合格者数	順位	（昨年度順位）	高校名	（○は私立高等学校）	合格者数
1	(1)	桐蔭学園	(神奈川)	102	53	(—)	サレジオ学院	(神奈川)	21
2	(3)	桐光学園	(神奈川)	83	53	(41)	宇都宮女子	(栃木)	21
3	(12)	厚木	(神奈川)	59	53	(51)	町田	(東京)	21
4	(2)	山手学院	(神奈川)	53	53	(31)	東京女学院	(東京)	21
5	(4)	希望ヶ丘	(神奈川)	51	53	(96)	森村学園高等部	(神奈川)	21
6	(15)	茅ヶ崎北陵	(神奈川)	49	53	(—)	生田	(神奈川)	21
7	(39)	小田原	(神奈川)	42	53	(47)	攻玉社	(東京)	21
8	(12)	横浜緑ヶ丘	(神奈川)	40	61	(41)	大妻多摩	(東京)	20
8	(31)	鎌倉学園	(神奈川)	40	61	(—)	大妻	(東京)	20
10	(22)	川和	(神奈川)	37	61	(—)	国際	(東京)	20
10	(5)	國學院大学久我山	(東京)	37	61	(75)	大宮	(埼玉)	20
12	(19)	立川	(東京)	36	61	(83)	秦野	(神奈川)	20
12	(96)	豊島岡女子学園	(東京)	36	61	(18)	大和	(神奈川)	20
14	(26)	鎌倉学院	(神奈川)	34	61	(—)	栄東	(埼玉)	20
14	(14)	横浜翠嵐	(神奈川)	34	61	(26)	共立女子	(東京)	20
14	(7)	市川	(千葉)	34	61	(31)	吉祥女子	(東京)	20
17	(26)	横須賀	(県立) (神奈川)	33	70	(65)	桐蔭学園中教	(神奈川)	19
17	(22)	青山	(東京)	33	70	(51)	成蹊	(東京)	19
17	(15)	湘南	(神奈川)	33	70	(96)	川越東	(埼玉)	19
20	(31)	南多摩	(東京)	32	70	(75)	世田谷学園	(東京)	19
20	(19)	神奈川大学附属	(神奈川)	32	74	(—)	北多摩	(東京)	18
22	(65)	光陵	(神奈川)	31	74	(—)	座間	(神奈川)	18
22	(26)	横浜共立学園	(神奈川)	31	74	(96)	淑徳与野	(埼玉)	18
24	(7)	頤栄女子学院	(東京)	30	74	(—)	大和西	(神奈川)	18
24	(—)	田園調布学園高等部	(東京)	30	74	(75)	鴎友学園女子	(東京)	18
24	(11)	柏陽	(神奈川)	30	74	(51)	駒場	(東京)	18
24	(—)	南	(神奈川)	30	74	(70)	成城	(東京)	18
28	(70)	多摩	(神奈川)	29	74	(—)	桐朋女子	(東京)	18
28	(47)	横浜雙葉	(神奈川)	29	82	(—)	熊谷	(埼玉)	17
28	(22)	日本大学第三	(東京)	29	82	(—)	茗溪学園	(茨城)	17
28	(7)	相模原	(県立) (神奈川)	29	82	(—)	神奈川総合	(神奈川)	17
32	(65)	西武学園文理	(埼玉)	28	82	(51)	山脇学園	(東京)	17
33	(10)	洗足学園	(神奈川)	27	82	(83)	浦和	(市立) (埼玉)	17
34	(61)	相模大野	(神奈川)	26	82	(—)	明治学院	(東京)	17
35	(36)	専修大学松戸	(千葉)	25	82	(83)	開智	(埼玉)	17
35	(17)	平塚江南	(神奈川)	25	82	(96)	日本大学第二	(東京)	17
35	(75)	桜美林	(東京)	25	82	(51)	市ヶ尾	(神奈川)	17
35	(22)	金沢	(神奈川)	25	91	(51)	浜松北	(静岡)	16
39	(61)	鎌倉	(神奈川)	24	91	(75)	浅野	(神奈川)	16
39	(—)	東京農業大学第一	(東京)	24	91	(—)	新潟	(新潟)	16
39	(41)	八王子	(東京)	24	91	(83)	土浦第一	(茨城)	16
42	(—)	頼明館	(東京)	23	91	(83)	桐朋	(東京)	16
42	(39)	水戸第一	(茨城)	23	91	(—)	成城学園	(東京)	16
42	(31)	錦城	(東京)	23	91	(—)	横浜隼人	(神奈川)	16
42	(51)	港南台	(神奈川)	23	91	(—)	三田	(東京)	16
46	(6)	八王子東	(東京)	22	99	(96)	星野	(埼玉)	15
46	(—)	海老名	(神奈川)	22	99	(—)	武蔵	(都立) (東京)	15
46	(41)	国立	(東京)	22	99	(—)	大田原	(栃木)	15
46	(65)	長野	(長野)	22	99	(—)	上田	(長野)	15
46	(51)	逗子開成	(神奈川)	22	99	(61)	竹早	(東京)	15
46	(—)	平塚学園	(神奈川)	22	99	(83)	外語短期大学付属	(神奈川)	15
46	(41)	國學院	(東京)	22	99	(41)	国分寺	(東京)	15
53	(36)	小山台	(東京)	21					

※合格者数は一般入学試験の数字です。

※補欠合格を含みます。

※昨年度100位以下の高等学校については昨年度順位を(—)としています。

※高等学校名は2007年度のもです。

※同一順位内の掲載順は本学のデータに基づくものです。

出身高校別屋間部合格率ランキング BEST 50

順位	（昨年度順位）	高校名	（○は私立高等学校）	合格者数	受験者数	合格率(%)
1	(20)	豊島岡女子学園	(東京)	36	60	60.0
2	(15)	大宮	(埼玉)	20	34	58.8
3	(11)	宇都宮女子	(栃木)	21	38	55.3
4	(2)	国立	(東京)	22	41	53.7
4	(34)	長野	(長野)	22	41	53.7
6	(4)	水戸第一	(茨城)	23	44	52.3
7	(31)	土浦第一	(茨城)	16	32	50.0
8	(23)	立川	(東京)	36	75	48.0
8	(42)	厚木	(神奈川)	59	123	48.0
10	(26)	横浜翠嵐	(神奈川)	34	74	45.9
11	(12)	横浜雙葉	(神奈川)	29	64	45.3
12	(46)	鎌倉学院	(神奈川)	34	79	43.0
13	(—)	国際	(東京)	20	47	42.6
14	(17)	湘南	(神奈川)	33	78	42.3
14	(—)	海老名	(神奈川)	22	52	42.3
16	(—)	鎌倉学園	(神奈川)	40	95	42.1
16	(—)	新潟	(新潟)	16	38	42.1
18	(—)	小田原	(神奈川)	42	100	42.0
19	(10)	横浜共立学園	(神奈川)	31	74	41.9
20	(—)	頼明館	(東京)	23	55	41.8
21	(40)	青山	(東京)	33	83	39.8
22	(—)	茅ヶ崎北陵	(神奈川)	49	127	38.6
23	(47)	希望ヶ丘	(神奈川)	51	137	37.2
24	(—)	山脇学園	(東京)	17	46	37.0
25	(17)	柏陽	(神奈川)	30	83	36.1
26	(—)	横須賀	(県立) (神奈川)	33	92	35.9
27	(—)	横浜緑ヶ丘	(神奈川)	40	113	35.4
28	(—)	淑徳与野	(埼玉)	18	51	35.3
28	(—)	田園調布学園高等部	(東京)	30	85	35.3
30	(—)	大妻	(東京)	20	57	35.1
31	(6)	浜松北	(静岡)	16	46	34.8
31	(—)	浅野	(神奈川)	16	46	34.8
31	(—)	光陵	(神奈川)	31	89	34.8
34	(38)	大妻多摩	(東京)	20	58	34.5
34	(7)	頤栄女子学院	(東京)	30	87	34.5
36	(—)	桐光学園	(神奈川)	83	242	34.3
37	(—)	神奈川総合	(神奈川)	17	51	33.3
37	(—)	サレジオ学院	(神奈川)	21	63	33.3
39	(—)	座間	(神奈川)	18	55	32.7
40	(—)	川和	(神奈川)	37	114	32.5
41	(24)	小山台	(東京)	21	65	32.3
41	(—)	神奈川大学附属	(神奈川)	32	99	32.3
43	(—)	相模大野	(神奈川)	26	81	32.1
44	(14)	桐蔭学園中教	(神奈川)	19	60	31.7
45	(—)	茗溪学園	(茨城)	17	54	31.5
46	(—)	北多摩	(東京)	18	58	31.0
47	(—)	熊谷	(埼玉)	17	55	30.9
47	(—)	多摩	(神奈川)	29	94	30.9
49	(5)	八王子東	(東京)	22	72	30.6
50	(—)	南多摩	(東京)	32	105	30.5

※合格者数は一般入学試験の数字です。

※補欠合格を含みます。 ※合格率＝合格者／受験者

※昨年度51位以下の高等学校については昨年度順位を(—)と表しています。

※合格率は小数点以下第2位を四捨五入して表記しています。同率の場合は、

小数点以下第2位で比較の上、順位付けを行っています。

※このランキングは、左表の100校を対象にしています。

※高等学校名は2007年度のもです。

物理・数理学科 秋光 純教授の研究グループが、ふたつの超伝導状態が存在する物質を発見



理工学部物理・数理学科
秋光 純 教授

本学理工学部物理・数理学科 秋光純教授の研究グループでは、大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 (KEK) との共同研究により、ひとつの物質に通常ひとつである超伝導状態が、同時にふたつ存在する珍しい物質を発見しました。今回の功績は、権威ある米国物理学会誌「フィジカル・レビュー・レターズ」にも掲載されるなど、今後の超伝導現象のさらなる解明の手がかりになるとして注目されています。

今回の発見の経緯、意義などについて、秋光教授に聞きました。

ある物質が超伝導状態であることを特徴づけるものを「エネルギーギャップ」と呼びます。ひとつの物質に対してエネルギーギャップはひとつが普通ですが、今回の研究では、そのエネルギーギャップがふたつ存在する物質が発見されたわけです。発見された物質は、イットリウムと炭素との化合物である「 Y_2C_3 」とランタンと炭素との化合物「 La_2C_3 」の2種類。ちなみに Y_2C_3 は、秋光研究室に所属する大学院生であった芥川智恵君が発見した新超伝導体です。

ふたつのエネルギーギャップが存在する物質（二重ギャップ超伝導体）については、昔から理論的には予言されていたことです。その予言が現実のものになったのは、我々が高温超伝導物質として2001年に発見した「二ホウ化マグネシウム (MgB_2)」が最初でした。 MgB_2 に関しては、39K（ケルビン）の“高温”の方が大きく注目されましたが、実は初めて発見された二重ギャップ超伝導体でもあったのです。そのため当時は、“二重ギャップが高温伝導物質の条件か”との憶測がありましたが、それは今も解明されていません。ちな

みに今回の Y_2C_3 は18K、 La_2C_3 は14K。高温と呼べなくもありませんが、39Kと比べるとまだ差があります。二重ギャップと高温との関係は、まだまだ謎のままです。しかし、これまで MgB_2 だけであった二重ギャップ超伝導体が、今回また新たに発見されたことにより、この分野に関する理解がさらに進んでいくと思われます。そういう意味では大きな貢献につながる発見だったと考えています。

また、今回の研究で注目すべきは、 Y_2C_3 と La_2C_3 という2種類の物質が発見され、それぞれを比較してデータを検出できた点です。超伝導状態の温度依存性は、ミュオンスピン回転法という測定方法を用い、専用の実験機器で調べますが、実験データを比較すると、同じ二重ギャップ超伝導体であっても、Y（イットリウム）とLa（ランタン）の違いで、超伝導の現れ方にも大きな違いがあることが証明されました。これまでは比較対象が存在しなかったわけですから、このことは今後の超伝導現象を深く解明していく上でも重要視されるはずです。今後は他の手段を用いてこの性質を解明していきたいと思っています。

「超伝導」と一言でいっても、そこへアプローチする方法は無数に存在します。我々も毎日のように研究に取り組んでいますが、まだまだ分からないことばかりです。新しい二重ギャップ超伝導体の発見も大きな研究成果ではありますが、超伝導研究におけるひとつの“過程”。今回の結果にさらなる考察を加え、今後どう展開していくかが大切です。我々の挑戦はこれからも続きます。

なお、最後になりましたが今回の研究は、秋光研究室に所属する大学院生の黒岩壮吾君と佐浦良洋君が中心となって進めてくれたプロジェクトであること、超伝導研究に欠かせない実験施設を装備する「高エネルギー加速器研究機構」との共同研究であったこと、そしてカナダのトライアンプ研究所に多大なご協力をいただいたことをお伝えしておきます。

理工学研究科 村田 尚義さんが多層カーボンナノチューブ内でのマイスナー効果の観測に成功

理工学部春山純志准教授の研究室に所属する村田尚義さん（理工学研究科理工学専攻機能物質創成コース・博士前期課程2年）は、超伝導の研究のひとつ「カーボンナノチューブにおけるマイスナー効果」において、これまで例がなかった多層カーボンナノチューブ内でのマイスナー効果の観測に成功しました。この世界初となる成果は、超伝導研究の発展に大きく寄与するものとして、世界の物理学者・研究者が愛読する権威ある論文誌「Physical Review B」に掲載されるなど、国際的にも高い評価を得ています。そこで村田さん本人に、研究の内容や創意工夫した点についてお話を聞きました。



理工学研究科理工学専攻
機能物質創成コース
村田 尚義さん

私が取り組んできたのは、炭素原子でできたストローク状のチューブ「カーボンナノチューブ」における「マイスナー効果」の研究です。マイスナー効果とは、超伝導体の内部の磁場が完全にゼロになる状態のことを指し、電気抵抗が極めて低い状態になる「電気抵抗の落ち」とともに、超伝導を定義づける特性にあげられます。

これまで同じ分野では、ひとつの層で構成される「単層ナノチューブ」を用いた研究成果が、フランスと香港のチームによって報告されていました。しかしながら、それらは重大な特性であるマイスナー効果、電気抵抗の双方からアプローチしたものではなく、香港のチームはマイスナー効果から、フランスのチームは電気抵抗からといったように、一方からの観点によるものでした。そこで私はそれらで使用されていなかった、複数の層を持つ「多層カーボンナノチューブ」を用いて双方の観点から追究することに意義を見出し、今回の研究を始めました。

カーボンナノチューブをつくるには、いくつかの方法があり、私は鉄やコバルトなどの強磁性触媒をアルコールガスなどで熱し、炭素を分解して成長させる「CVD法」を用いました。これにより、高品質の多層カーボンナノチューブをつくること

ができますが、強磁性の影響が残ってしまうと、複数あるチューブの一部に電流が流れてしまう現象が発生し、電気抵抗と磁化の測定妨げとなってしまいます。

強磁性の影響は、強磁性触媒そのものの量を減らすことにより軽減できますが、同時に観測の対象となるカーボンナノチューブの量も減ってしまいます。そこで私は、観測に必要な量を得るため、CVD法による作成の直前に、高温のアルコールガスによる還元を行い、成長の妨げとなる酸化を防ぐ方法を用いました。その結果、強磁性の影響を抑えながらほぼすべてのカーボンナノチューブにまんべんなく電流が流れる状態をつくり出すことに成功し、18～23K（ケルビン）（-255.15～-250.15℃）まで冷却した時点でマイスナー効果を観測することができました。実験を幾度か重ねた結果から、いくつもの多層カーボンナノチューブが連なって結合している「アレイ構造」がマイスナー効果に寄与しているのではないかと分析しています。

今回このような成果をあげられたのは、春山先生のご指導をはじめ、他大学や企業との共同研究、国際学会への参加などから多くの良い刺激を受けながら研究に取り組んできたからこそだと思っています。また、競い合い助け合ってきた同じ研究室の仲間との存在も、大きな励みとなりました。卒業後は企業の研究職として、ナノデバイスの研究に携わります。物理という専門分野は持っていますが、領域の敷居にとらわれず、新しい可能性を生み出す研究者になりたいと思います。

春山 純志 准教授から一言

村田君には多少の挫折ではあきらめない粘り強さがあります。多くの学生は、ディスカッションの際に間違いを指摘されると落ち込んでしまうことがよくありますが、彼は正すべきところを受け入れる素直さと、逆境を自らのモチベーションに変える精神力を備えているように感じています。そのような人間的な素養が、優れた成果を生み出す原動力になったのでしょうか。今後はより自分を表に出す積極性も発揮し、さらに活躍してくれることを願っています。

2007年度 技術士第一次試験・機械部門に 理工学部機械創造工学科の学生16名が合格!



理工学部機械創造工学科
渡邊 昌宏 准教授

2007年10月に行われた技術士第一次試験・機械部門において、理工学部機械創造工学科の学生16名が見事に合格を果たしました。

今回の合格者輩出について、機械創造工学科渡邊昌宏准教授の講評を聴きました。

「技術士」とは、科学技術に関する高度な専門知識と豊富な実務経験、および倫理観を備えた技術者に認定される国家資格で、「機械」「船舶・海洋」「航空・宇宙」など全部で21の技術部門があります。第一次試験の合格者は「修習技術者」となり、(社)

日本技術士協会が管理する登録手続きを行い、技術士を補佐する業務に就くことで「技術士補」となります。そしてさらに、定められた年数の実務経験を経た後に第二次試験に合格し、登録することで「技術士」を名乗ることができます。

「技術士」は、世界各国の技術者資格の相互承認を推進するAPEC (Asia-Pacific Economic Cooperation) エンジニア制度の登録対象となっており、

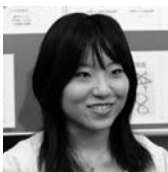
登録することで活躍の場を海外に広げることができます。なかでも、米国内で多くの独占業務を担うPE (Professional Engineer) と等価とみなされることには、技術者としての可能性を広げるうえで多大なメリットがあります。また、日本国内でもPEと同じように、いくつかの専門的な業務を技術士取得者の独占業務とする動きがあり、将来性においても多方面から注目されています。

「修習技術者」は、技術士第一次試験に合格、もしくはJABEE (日本技術者教育認定機構) が認定した課程を修了することで取得できます。本学科は第一次試験で求められる知識・技術の養成を重視し、機械工学の中心となる力学「材料力学」「流体力学」「熱力学」「機械力学」の4つを核とした教育研究に取り組んできました。今回合格した16名の学生は、日頃培ってきた学修の成果を試験でしっかりと発揮してくれたのだと思います。

2007年度は、専門的知識・技術と実務の関係を学ぶ科目「技術と社会」を開講し、大学というアカデミックな枠のなかでの学ぶ力学と実務のつながりを学生たちに伝えるように努めてきました。とくに技術士として実務に携わる卒業生を招いた講演は学生たちに好評で、職業や資格取得への高い意識を養う良いきっかけになったと感じています。今後はさらにこのような機会を増やしていく予定です。

理工学研究科 石川 莉子さんがヒューマンインターフェース学会 第9回学術奨励賞を受賞

理工学研究科理工学専攻知能情報コース博士前期課程に在籍する石川莉子さんの論文「書字訓練におけるボディイメージ支援技術の開発」が、ヒューマンインターフェース学会第9回学術奨励賞(2008年度)を受賞。3月14日(金)にはその授賞式が行われました。この研究は、福祉工学におけるリハビリ訓練装置の開発を大きく促進させるものとして、期待が寄せられています。そこで、石川莉子さんと研究指導をおこなっている武藤剛助教に、研究の内容や今後の展開についてお話を聞きました。



理工学研究科理工学専攻
知能情報コース
博士前期課程

石川 莉子さん

なぜ福祉工学の道に進んだのですか。

大学受験の頃に祖父が体調を崩してしまったのをきっかけに、「人を助ける技術を開発したい」と考えるようになりました。自分の作る装置で一人でも多くの人を元気にできればと思ったのです。

研究の内容について教えてください。

上腕の運動機能に障害を持った方が字を書くリハビリ訓練をする際の、新しい支援技術の開発を目指しました。普段私たちの身体がスムーズに動くのはボディイメージ(脳の中にある無意識的な身体感覚)が正常

に機能しているからですが、マヒの状態が続くとそれが変化してしまい、筋肉の衰えもあいまって、ますます思った通りに身体を動かせなくなります。そこで、この“ボディイメージ”に着目し、それを支援する装置を開発しようと考えました。

最初は模範映像とともに図を書く実験を行いました。被験者(健常者)5名が非利き手側をボディイメージの獲得されていないマヒ側の手とみなし、録画した模範映像をモニターで見ながら、同じ図形を書いたのです。すると、図形の始点と終点がブレるという現象が起きました。何度繰り返しても同じで、できる人とできない人の差がはっきりと出る。実験前は録画映像があれば事足りたと思っていたので、この結果には驚きました。「どうしよう……」悩み考えたとき、ふと思い出したのが小学校時代の書道の時間。先生が直接手をとって筆の運び方を教えてくれた、あの「模範となる運筆方法を体で知る」感覚を再現してみたらどうかと考え、模範者の書く図形は被験者側のモニターに、被験者の書く図形は模範者側のモニターにリアルタイムで映るように、2台の装置をつなげたのです。すると、何度か実験を繰り返すうちに模範者と被験者の息が合ってきて、どの被験者もブレを補正することができるようにな

りました。模範者と被験者がボディイメージをリアルタイムに交換することで、互いに教え合い、補正し合いながら、正しい運筆パターンを効率よく学習できたのです。録画映像による一方通行のボディイメージ支援では成り立たないものが、双方向だと成功する。これは実験前には予想していなかった結果で、非常に多くのことを示唆していると思います。

学会発表や学術奨励賞受賞の感想を聞かせてください。

学会での初めての単独発表で最初はとても緊張したものの、比較的落ち着いてできたと思います。受賞の知らせを受けても最初は信じられなくて……後からじわじわと喜びが湧いてきて、これからもっともっと勉強していかなければと決意を新たにしました。授賞式では、緊張のさらに上に行く高揚感を感じつつ、「今私は最高の経験をしているんだな」と冷静に考えている自分もいて、生まれて初めての不思議な感覚を味わいました。

今後の研究の課題や展開について教えてください。

“自宅のできるリハビリ支援装置”を目指していますので、装置の小型軽量化と模範者の動きの数値化・自動化、操作性の向上などが今後の課題です。臨床実験の準備も進めており、その結果でまた問題点が出てくると思いますが、ひとつひとつ改善を重ね、実用化に向けて研究を進めていきたいです。

武藤 剛 助教(理工学部情報テクノロジー学科) から一言

福祉工学には「代償」と「リハビリテーション」のふたつの考え方があります。例えば足に障害がある人のために装置を作る場合、車椅子など歩く機能を代償する装置の開発と、足のリハビリを行う装置の開発に分けられるのですが、現在の福祉工学においては前者の開発が盛んです。もちろんリハビリ装置の開発も進められていますが、それは弱った筋肉を鍛える筋トレ機器、つまり「筋肉へのアプローチ」が主であり、ダメージを被った脳を修復する「脳へのアプローチ」はあまり注目されていなかったのです。今回の研究は、今まであまり陽の当たらなかった“脳からのリハビリ”に着目したことで、これからのリハビリ訓練装置の開発に新しい光を投げかけたと言えるでしょう。「トレーナーと被訓練者が脳内のイメージを交換する」という手法は、福祉工学の世界にかなりのインパクトを与えたと思っています。

今リハビリの現場では作業療法士が不足しており、それを補う装置のニーズが高まっています。今後はぜひ実用化に向けて、ひとつずつ課題をクリアして改良を進めていってくれることを期待しています。

「第60回学生広告論文電通賞」において、 文学部心理学科 仁科貞文ゼミの学生グループが1位と2位を受賞!

学生広告論文電通賞(主催:株式会社電通、後援:文部科学省)は、大学生や高校生に広告の社会的意義について理解を深めてもらうことを目的として、1949年に制定された懸賞論文です。毎年、各部門ごとに課題が出されますが、「少子化社会に広告はいかなる役割を果たすか」を課題とした今年の大学生グループ・論文部門において、文学部心理学科の仁科貞文ゼミに所属する「社会心理学研究会(3年生15名)」が1位(文部科学大臣奨励賞、電通賞)、「広告心理研究会(4年生8名)」が2位(電通賞)を受賞しました。

1位を受賞した「社会心理学研究会」で代表を務めた満田尚久君は、「いろいろなデータを集めるうちに、少子化問題を世間に訴える場合、ただ単純に「国(政府)から女性へ」というパターンだけでなく、複数の広告の送り手と受け手があることに気付きました。特に僕たちが注目したのは、企業側の取り組みです。企業の目線から「働く女性を支える」内容の広告は、世の中に大きなインパクトを与えるはず。しかも企業にとっては、CSR(企業の社会的責任)の一環として取り組む価値も見出せます。それら複数のアプローチによる広告を同時に発信し、その相乗効果が、少子化問題に一石を投じるのではないのでしょうか」と、受賞論文の主旨を語ります。

また、2位の「広告心理研究会」で代表を務めた千田真悠子さんも、「少子化問題の“地域性”に着目した私たちは、まず47都道府県にアンケート調査を実施。その結果から、地域によって問題の主題が異なることが見えてきました。つまり、働く女性の多い都市部と、家庭に入る女性が多い地方とでは、広告を出すにも当然そのアプローチ方法は変わってくるので

す。そのため、いくつかのバリエーションの模擬広告を作り、それを再び全国の自治体に見ていただき、フィードバックされた意見を貴重なデータとして論文に掲載。全員が満足できる仕上がりになりました」と、受賞の声を聞かせてくれました。

なお、毎年「学生広告論文電通賞」への参加を続けている意図について、仁科貞文教授は、次のように話します。

「私はゼミでの活動を通して“共同作業”を大切にしています。10人以上の学生が意見を出し合い、1本の論文にまとめる作業は容易ではありませんが、その過程を通して得られるものは大きいと考えているからです。今年は、3年生のチームは“企業から見た広告”、4年生のチームは“自治体から見た広告”と、違った視点で論文に取り組み、その両方が高い評価を得られたことは大変うれしく思います」



左から千田さん、仁科教授、満田君

「WTO研究センター」2007年度活動報告と今後の展望



WTO研究センター所長
岩田 伸人

本学WTO研究センターは、WTO(世界貿易機関)を取り巻く国際的な経済・通商分野の問題について、大学という中立な立場から課題の把握や調査研究に取り組み、広く社会への貢献に結び付けることを目的として、2003年4月に発足しました。「世界の平和に貢献し得る人材育成と研究を行う」ことを方針として定め、毎年、数々のイベントを本センター主催や国連大学などの共催で開催しています。2007年度の主な活動をご紹介します。

紹介しましょう。

●「研究会・セミナー」として、「米韓FTAの概要と両国の反応(ジェトロ米韓FTA調査関係者)」(5月18日開催)、「日ASEAN二国間・複数国間EPAの概要(経済産業省担当者)」(11月30日開催)、「WTO農業交渉の状況(農林水産省交渉関係者)」(12月14日開催)などのテーマが報告されました。

●「公開セミナー」では、11月8日に中国・復旦大学経済学院教授の陳建安氏を講師として招いた「中国の内外直接投資と対外貿易への影響」を開催し、大きな反響を得ました。

●「国際シンポジウム・講演会」においては、あとで述べる「研究プロジェクト」とも連動しますが、2008年2月1日に、日本・モンゴル国際学術シンポジウム「グローバル化とエコツーリズム～モンゴルの観光・環境資源をどう活かすか～」をモンゴル政府・大使館の後援で開催しました。このシンポジウムは、急速に市場経済化を進め

るモンゴルにおいて、その雄大かつ多様な観光・環境資源をどのように活かすべきかを、主に現地の視点でレポートされたもので、日本政府やマスコミ関係者にも注目されたイベントです。

●「特別講演会」として開催された、米国ジョージタウン大学のジェームズ・ファイナマン教授特別講演会「WTOと中国～知財問題をきっかけとして激動の度を加える中国の国内・国際情勢～」(2007年6月14日)、国連大学との共催でバングラディシュ人民共和国外務担当顧問特別講演会「G8とドーハ・ドーハラウンドに『開発』を取り戻す」(2008年2月25日)も大盛況でした。

●「研究プロジェクト」では、2006年1月から“モンゴル国立大学との共同研究プロジェクト”を展開しています。同年8月には、青学生とモンゴル国立大学生とのディスカッションも現地で行いました。「日本とモンゴル間における望ましいFTAの提案」を研究目的とし、FTA(自由貿易協定)に関するいろいろなアイデアが出されるなど、徐々に成果が形になりつつある段階です。先程ご紹介した日・モン国際学術シンポジウムも成果発表のひとつの形といえるでしょう。

以上、昨年度の比較的大きな取り組みをご紹介しましたが、本センターが今後、アジア・太平洋地域における大学のWTO研究の拠点と呼べる組織へと成長していくためには、さらなるネットワークづくりを推進するべく、国外の研究機関との連携を強めていく必要があります。2008年度以降も積極的な活動を展開していくつもりです。

なお、本センターの活動は、オリジナルサイトで随時報告しています。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.wto.aoyama.ac.jp>



APEC公式シンポジウム
東アジアにおけるFTAの形成とAPECの役割
(外務省・経済産業省後援 2006年9月27日～28日開催)

2008年度新役職員紹介

文学部長・文学研究科長 西澤 文昭

伊藤 定良教授は学長に就任のため、西澤 文昭教授が後任に選出され、2008年1月より同年3月末日まで代行を務められた。大学院文学研究科長を兼務。任期は2008年4月1日より2年間。東京大学教養学部教養学科卒業、東京大学大学院人文科学研究科仏語仏文学専攻修士課程修了、パリ第三大学修士課程修了。文学修士。文学部フランス文学科主任、大学院文学研究科フランス文学・語学専攻主任、外国語ラボラトリー所長等を歴任。



文学部は青山学院大学において、最も長い歴史と伝統を持つ学部です。パラエティに富んだ学科構成ですが、すべて「人間を学ぶ」、つまりは「自分自身」あるいは「他者」について学ぶ学問であるということ共通しています。来春以降、学部の再編が予定されておりますが、これからも「人間」に関わる学問を提供すべく、文学部は時代に敏感であり続けたいと考えています。

国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長 仙波 憲一

土山 実男教授は2008年3月末日をもって任期を満了、後任には仙波 憲一教授が選任された。任期は2008年4月1日より2年間。大学院国際政治経済学研究科長を兼務。青山学院大学大学院経済学研究科博士課程所定の単位取得のため退学。経済学修士。副学長（学務及び学生担当）、青山スタンダード教育機構機構長等を歴任。



学部設立から四半世紀が過ぎ、現代における国際政治経済学部の役割は、「国際社会がどうあるべきか？」を深く探究することだと考えています。海の向こうの出来事が、日本の国民生活にも多大な影響を与える時代です。国境を越えて、世の中を“グローバルな視点からガバナンス”していけるセンスと、あらゆる分野に理論的に対処できる力を身につけた人材を育成してまいります。

理工学部長・理工学研究科長 辻 正重

稲積 宏誠教授は2008年3月末日をもって任期を満了、後任には辻 正重教授が選任された。任期は2008年4月1日より2年間。大学院理工学研究科長を兼務。東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。工学博士。副学長（総務及び広報担当）等を歴任。



持続可能社会、あるいは循環型社会といった考え方が世界的に注目されていますが、その理想とされる社会の実現には、最先端の科学技術の力が不可欠です。日本の理工学の技術が、これからの社会、そして世界に対して大いに貢献することが期待されるなか、我々、理工学部でも優秀な人材を世に輩出することは社会的使命だと受け止め、今後も最先端の研究に取り組んでまいります。

総合文化政策学部長・総合文化政策学研究科長 石崎 晴己

石崎 晴己教授が選任された。任期は2008年4月1日より2年間。大学院総合文化政策学研究科長を兼務。早稲田大学大学院文学研究科仏文専修博士課程満期退学。文学修士。図書館長、文学部長、大学院文学研究科長、国際交流センター所長等を歴任。



総合文化政策学部では、芸術・文化を理解するための「人文学」と、経済・産業・社会を理解するための「社会科学」を学びの2本柱と位置づけ、現代文化へのアプローチを試みます。“文化”を総合的にマネジメントする力を養うため、学問的“知”と実践的“知”との両面から自己を磨き、世界を舞台に文化の橋渡しを担うことのできる人材を本学部では育成してまいります。

社会情報学部長・社会情報学研究科長 魚住 清彦

魚住 清彦教授が選任された。任期は2008年4月1日より2年間。大学院社会情報学研究科長を兼務。東京大学大学院工学系研究科応用物理専門課程博士課程単位取得後退学。工学博士。副学長（総務担当）、理工学部長、大学院理工学研究科長、情報科学研究センター所長等を歴任。



想像を超える速度で高度情報社会が進むなか、「文理融合型学部」の設置という明確なコンセプトのもとに、社会情報学部は誕生しました。“数理的素養”“コミュニケーション能力”“論理的思考”“情報の高度な活用”をバランスよく学ぶことで文系・理系双方の知識を自然と身につけることができ、本学部が掲げる「社会に出て本当に役立つ能力を備えた人材育成」を目指してまいります。

法務研究科長 山崎 敏彦

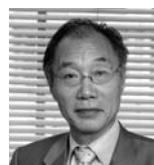
神長 勲教授は2008年3月末日をもって任期を満了、後任には山崎 敏彦教授が選任された。任期は2008年4月1日より2年間。東北大学大学院法学研究科私法専攻博士課程中途退学。法学博士（東北大学）。法学部長、大学院法学研究科長等を歴任。



「法曹倫理」「国際性」「要件事実・事実認定論」といった、法律家にとって大切な要素、ある意味では当たり前の要素をしっかりと身につけ、実践で活躍できる人材を育成していくことが我々の務めであり、社会からの要請でもあります。青山学院大学大学院法務研究科では、“プロフェッション”として法曹の道を歩むための下地となる能力を身につけてもらうべく、個性ある学びの場を用意しています。

図書館長 山本 吉宣

篠原 進教授は2008年3月末日をもって任期を満了し、後任に国際政治経済学部国際政治学科 山本 吉宣教授が選任された。任期は2008年4月1日より2年間。



学生部長 本郷 茂

本郷 茂教授は2008年3月末日をもって任期を満了し、引き続き同氏が再任された。任期は2008年4月1日より2年間。



情報科学研究センター所長 林 洋一

魚住 清彦教授は2009年3月末日をもって任期を満了のところで、理工学部電気電子工学科 林 洋一教授が残存期間を務めることとなった。任期は2008年4月1日より1年間。



国際交流センター所長 吉波 弘

石崎 晴己教授は2008年3月末日をもって任期を満了し、後任に文学部英米文学科 吉波 弘教授が選任された。任期は2008年4月1日より2年間。



外国語ラボラトリー所長 蔭山 友行

田辺 正美教授は2008年3月末日をもって任期を満了し、後任に理工学部 蔭山 友行教授が選任された。任期は2008年4月1日より2年間。



2008年度新任専任教員紹介

2008年4月1日付就任者の所属、氏名、専門分野を掲載しています。

文学部 教育学科
小林 紀子 教授
幼児教育

文学部 教育学科
鈴木 眞理 教授
社会教育論

文学部 英米文学科
若林 麻希子 准教授
アメリカ文学

文学部 フランス文学科
阿部 崇 准教授
フランス現代思想

文学部 日本文学科
大屋 多詠子 准教授
日本近世後期小説

文学部 心理学科
駒屋 雄高 助手
臨床心理学

文学部 心理学科
森山 久留美 助手
臨床心理学

経済学部
福原 崇之 助手
産業組織論

経済学部 経済学科
白須 洋子 准教授
コーポレート・ファイナンス

経済学部 経済学科
高嶋 修一 准教授
日本経済史

経済学部 現代経済デザイン学科
西川 雅史 准教授
地方財政論

法学部
塩谷 直也 准教授
組織神学

経営学部
當間 麗 准教授
表象文化論(アメリカ研究)

経営学部
永井 忠孝 准教授
言語学、人類学

経営学部 経営学科
芳賀 康浩 准教授
マーケティング

国際政治経済学部 国際政治学科
小山 花子 助教
政治思想

国際政治経済学部 国際経済学科
飯坂 ひとみ 助教
国際経済

総合文化政策学部 総合文化政策学科
内山 隆 教授
経営学、経済学(公益事業)

総合文化政策学部 総合文化政策学科
梅津 順一 教授
経済史、比較文明論

総合文化政策学部 総合文化政策学科
岡 眞理子 教授
文化政策論、対外交流政策論、言語政策論

総合文化政策学部 総合文化政策学科
黒石 いずみ 教授
都市・建築理論、生活デザイン論

総合文化政策学部 総合文化政策学科
鳥越 けい子 教授
環境文化学(特にサバドスケープ研究)、芸術学(音楽学)、環境美学

総合文化政策学部 総合文化政策学科
沖本 幸子 准教授
日本芸能史、表象文化論

総合文化政策学部 総合文化政策学科
関根 小織 准教授
現代哲学

総合文化政策学部 総合文化政策学科
竹内 孝宏 准教授
表象文化論

総合文化政策学部 総合文化政策学科
中野 昌宏 准教授
社会理論、社会哲学

総合文化政策学部 総合文化政策学科
宮澤 淳一 准教授
文学・文化研究、音楽学、メディア論

理工学部 物理・数理学科
中山 裕道 教授
位相幾何学

理工学部 物理・数理学科
前田 はるか 准教授
物理学

理工学部 物理・数理学科
増田 哲 准教授
非線形可積分系理論

理工学部 物理・数理学科
礪島 伸 助教
数理論理学(特に非線形可積分系)

理工学部 物理・数理学科
糸井 充穂 助教
固体物性

理工学部 物理・数理学科
川口 俊宏 助教
宇宙物理学、天文学

理工学部 物理・数理学科
小林 夏野 助教
物性物理

理工学部 物理・数理学科
鈴木 正 助教
統計物理学

理工学部 物理・数理学科
村田 実貴生 助教
可積分系

理工学部 化学・生命科学科
杉村 秀幸 教授
有機化学

理工学部 化学・生命科学科
大津 英揮 助教
錯体化学、生物無機化学

理工学部 化学・生命科学科
小野寺 玄 助教
合成化学

理工学部 化学・生命科学科
木本 篤志 助教
機能物質化学

理工学部 化学・生命科学科
根岸 隆之 助教
神経科学、放射線化学物質影響科学

理工学部 電気電子工学科
外林 秀之 准教授
情報通信

理工学部 電気電子工学科
水崎 壮一郎 助教
固体物理学

理工学部 電気電子工学科
三田 清二 助教
電子材料

理工学部 電気電子工学科
渡邊 慎也 助教
電磁波工学

理工学部 機械創造工学科
菅原 佳城 助教
機械力学・制御、制御工学、航空宇宙工学

理工学部 機械創造工学科
山田 英助 助教
燃焼、流体力学

理工学部 機械創造工学科
浅岡 龍徳 助手
熱工学、伝熱工学

理工学部 機械創造工学科
原 謙介 助手
機械力学

理工学部 機械創造工学科
松尾 卓摩 助手
非破壊検査

理工学部 経営システム工学科
早坂 弘達 助手
会計学、IE

理工学部 情報テクノロジー学科
小宮山 摂 教授
感覚工学、音響工学

理工学部 情報テクノロジー学科
河上 篤史 助教
ロボティクス(特に極限作業ロボット分野)

理工学部 情報テクノロジー学科
野村 亮 助教
情報工学(特に情報理論、データ圧縮)

理工学部 情報テクノロジー学科
松田 源立 助教
ニューラルネット

理工学部 情報テクノロジー学科
武藤 剛 助教
福祉工学、ヒューマンインタフェース、人間・機械系、リハビリテーション科学

理工学部 情報テクノロジー学科
松本 章代 助手
自然言語処理

社会情報学部
大宮 謙 准教授
新約聖書神学(特にマタイによる福音書)

社会情報学部 社会情報学科
飯島 泰裕 教授
情報科学

社会情報学部 社会情報学科
刘宿 俊文 教授
学習環境デザイン論

社会情報学部 社会情報学科
高木 光太郎 教授
発達心理学、法心理学

社会情報学部 社会情報学科
長橋 透 教授
経済学

社会情報学部 社会情報学科
開澤 栄相 教授
国際金融論

社会情報学部 社会情報学科
福田 亘孝 教授
社会学

社会情報学部 社会情報学科
宮川 裕之 教授
情報システム学

社会情報学部 社会情報学科
村川 久子 教授
外国語教育学(音声学)

社会情報学部 社会情報学科
LAMBACHER, S.G.
准教授(専任待遇)
第二言語音声学的情報の取得

社会情報学部 社会情報学科
宮治 裕 准教授
ロボット工学

社会情報学部 社会情報学科
伏屋 広隆 助教
確率論、数理ファイナンス

情報科学研究センター
阿部 慶賀 助教
認知科学

ヒューマン・イノベーション研究センター
齋藤 裕 助教
経営情報システム(マネジメントIT)

国際マネジメント研究科
西谷 幸介 教授
キリスト教社会倫理学

国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻
藤原 洋 特任教授
電気電子工学
(デジタル信号処理、通信ネットワークアーキテクチャ)

会計プロフェッション研究科 会計プロフェッション専攻
片山 英木 教授
監査論

会計プロフェッション研究科 会計プロフェッション専攻
並木 秀明 助手
会計教育

2007年度 学位授与式 大学院学位授与式

2008年3月25日(火) 青山学院記念館において大学学位授与式が挙行政され、昼間部3,479名、第二部(夜間部)593名、合計4,072名の卒業生に学士の学位が授与されました。

また、同日ガウチャー記念礼拝堂において大学院学位授与式が挙行政され、大学院博士前期課程および修士課程修了生260名に修士の学位、専門職学位課程修了生208名に専門職の学位、さらに博士課程修了生25名、論文博士1名に博士の学位が授与されました。



Club & Circle Information

問い合わせ先
学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2008年6月~7月)

居合道部 第40回東日本居合道新人戦(6月)
第15回東京都女子居合道大会(7月)
弓道部 全関東大学弓道選手権大会(6月)
剣道部 全日本学生剣道選手権大会・全日本女子学生剣道選手権大会(7月)
拳法部 全国大学選抜選手権大会・東日本学生個人選手権大会(6月)
東日本女子個人選手権(7月)
硬式野球部 全日本大学野球選手権大会(6月)
サッカー部 JR東日本カップ2008第82回関東大学サッカーリーグ戦(前期)・
第22回関東大学サッカー選手権兼第32回総理大臣杯全日本
サッカートーナメント関東予選(6月)
第32回総理大臣杯サッカートーナメント(7月)
柔道部 東京都ジュニア柔道体重別選手権大会(7月)
準硬式野球部 東都大学準硬式野球春季リーグ戦(6月)
水泳部 夏季関東学生公認記録会(6月)
漕艇部 東日本大学選手権大会(6月) 関東新人ナックル選手権(7月)
ソフトテニス部(男子・女子) 東日本学生大学対抗・全日本大学ソフトテニス王座
決定戦(6月) 東日本一般選手権大会(7月)
卓球部(男子・女子) 関東学生卓球選手権大会(6月)
全日本学生卓球選手権大会(シングルス・ダブルス)(7月)
チアリーディング部 関東選手権(6月)
軟式野球部 春季リーグ戦(6月)
バスケットボール部(男子) 第48回関東大学バスケットボール新人戦(6月)
バスケットボール部(女子) 東京都大会(6月)
馬術部 東京馬術大会・関東学生争覇戦・関東学生馬術大会(6月)
バドミントン部(男子・女子) 関東学生バドミントン選手権大会(6月)
バレーボール部(男子・女子) 東日本大学男女バレーボール選手権大会(6月)
フェンシング部 剛毅杯(6月)
ボクシング部 関東ボクシングリーグ戦(6・7月)
東京都オープン戦・東京都選手権大会(7月)
陸上競技部(短距離ブロック) 日本学生陸上競技対校選手権大会(6月)
ラクロス同好会(女子) リーグ戦(7月)
二部バスケットボール部 前期リーグ戦(6・7月)
青山フォークウェイズ 春季定例コンサート(6月)
青山学院大学アナウンス研究会 ジョイント・モニター・フェスティバル(6月)
E.S.S. 大木杯スピーチコンテスト(6月)
演劇研究会 新人公演(6月)
青山学院オラトリオン・ソサエティ合唱団 KAY合唱団第117回定期演奏会(6月)
ギターアンサンブル 関東ギター連盟定期演奏会(6月)
競技ダンス部 東日本学生競技ダンス選手権大会・皇杯杯争奪学生競技ダンス選手権
大会・東都日本学生競技ダンスジュニア選手権大会(6月)
グリーンハーモニー合唱団 トワイライトコンサート(6月)
写真研究会 写真展(6月)
箏・尺八研究会 関東学生三曲連盟定期演奏会(7月)
ロイヤルサウンスジャズオーケストラ トライアングルコンサート(6月)
京王百貨店ビッグバンドコンサート(7月)

課外教育プログラムについて

課外教育プログラムは青山学院の教育方針を具現化し、正課では得ることのない知識や教養を体得し、そのことを通して社会の一員としてバランス感覚の整った学生を育成することを目的としています。

2008年度の課外教育プログラムの予定は以下のとおりです。奮ってご参加ください。詳細は、学生部(青山キャンパス)・学生生活グループ(相模原キャンパス)にお問い合わせください。



4月7日(月)〈実施完了〉

アルコールパッチテスト

企画・目的

新入生を対象として学生生活が始まるに際し、飲酒に対して自己の体質をよく理解するために実施しました。

実施場所：相模原キャンパス

5月17日(土)〈実施完了〉

風作り

企画・目的

相模原地域の伝統工芸である風作りを体験することにより地域とのふれあいを高め地域の歴史を学びました。

実施場所：相模原キャンパス

募集人数：30名程度

6月11日(水)・25日(水)

青山キャンパス 上級救急救命法/相模原キャンパス 上級救急救命法

企画・目的

災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも救急講習を受けましょう。

実施場所：青山・相模原両キャンパス

募集人数：20名(青山)50名(相模原)程度

9月17日(水)~19日(金)

手話講習会【集中講座3日間】

企画・目的

講習会を通して、手話への理解と、聴覚障害学生への支援活動を行います。

実施場所：相模原キャンパス

募集人数：30名程度(希望者数により上限は考慮する予定)

9月17日(水)

ノートテイク入門

企画・目的

講習会を通して、ノートテイクへの理解を深めます。

実施場所：青山キャンパス

募集人数：10名程度

10月8日(水)

青山キャンパス 上級救急救命法

企画・目的

災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも救急講習を受けましょう。

実施場所：青山キャンパス

募集人数：20名程度

11月30日(日)

旬野菜の健康家庭料理【秋企画】

企画・目的

食文化を通しての異文化体験の場として、また食事作りを通して参加者の交流の機会を設定いたします。

実施場所：外部施設利用

募集人数：20名程度

※その他、通年企画として使用済み切手・テレフォンカードの回収を実施し、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS 切手)、アジアキリスト教教育基金(ACEF テレフォンカード)へ宗教センターを通して送付しています。

2007年度 学生表彰

2008年3月24日(月)、青山キャンパス6号館第4会議室において、「2007年度学生表彰授与式」が行われました。この表彰は、学生が在学中に学業および学友会活動以外の多様な分野において人の範となる活躍または業績をあげ、その行為が本人および青山学院大学の荣誉となるものについて、広く内外に顕彰することを目的としています。2007年度は以下の9名が受賞しました。

2007年度学生表彰 受賞者 ※学年は2007年度のものです。

●第10回公共選択学会「学生の集い」

最優秀賞(第1位)〈3年生の部〉受賞

経済学部中村まづるゼミナール 3年Mパート

経済学部経済学科3年 村井 基恵

経済学部経済学科3年 西川 美希

経済学部経済学科3年 山田 大貴

経済学部経済学科3年 日高 耕太郎

●湘南学生ビジネスアイデアコンテスト

ビジネスアイデア優秀賞(第2位)受賞

文学部教育学科4年 古藤田 奈穂

文学部心理学科4年 吉田 有里

●2006年電子情報通信学会ソサイエティ大会

平成18年度学術奨励賞 受賞

理工学研究科理工学専攻電気電子工学コース

博士後期課程(2007年3月)修了 大野 貴信

●第40回記念 全日本きものの女王全国大会

2007全日本きものの女王

法学部法学科3年 藤原 麗子

●全日本学生ボードセーリング選手権大会個人戦 優勝

ミストラルクラス全日本選手権 第2位

第62回国民体育大会 第6位入賞

法学部法学科4年 上野 惇史



総合 研究成果 発表状況

2007年度3月末までに研究活動を終了したプロジェクトからは市販本や報告論集を研究成果として、研究途中のプロジェクトの一部からは中間報告論集が以下の通りに刊行されました。

2007年度研究成果

研究部	研究プロジェクト	研究成果
キリスト教文化	青年期におけるモラル教育の危機と可能性 —キリスト教モラル教育の構築へ—	市販本 『モラル教育の再構築をめざして モラルの危機とキリスト教』 (教文館) 1,680円
人文科学	前近代における王の権力と表徴 一日欧比較研究—	市販本『王の表象 文学と歴史・日本と西洋』 (山川出版社) 3,360円
社会科学	情報工学による政府活動の検証	市販本『地域間格差と地方交付税の歪み 地方財政の外れ値の探索』 付属CD-ROM付 (勁草書房) 2,940円
社会科学	コーポレート・ガバナンス改革と企業業績・企業価値の関連性に関する国際比較	報告論集
自然科学	素粒子論に基づいた時空と物質の創生	報告論集
自然科学	健康な脳を維持する食生活因子の解析	報告論集
社会科学	IT革命と企業経営—ITビジネス・IT企業・IT産業	中間報告論集1・2 『中小企業組合の情報化』 『中小企業組合の情報化(実態調査編)』
社会科学	日本・モンゴルのFTA(自由貿易協定)結成に係わる研究	中間報告論集 『日本・モンゴル国際学術シンポジウム』
eラーニング人材育成研究センター		研究叢書第3巻第1号 TF22
		研究叢書第3巻第2号 TF26
		サイバーキャンパス整備事業報告書
		現代GP成果報告書

2008年度 入学式

2008年4月4日(金)、青山学院記念館において大学入学式が挙行政され、昼間部4,282名、第二部(夜間部)207名、合計4,489名の新入生が入学しました。また、同日、ガウチャー記念礼拝堂において、大学院入学式が挙行政され、573名が入学しました。



2007年度 体育会優秀団体・選手表彰

2008年3月7日(金) アイビーホール青学会館において「2007年度体育会優秀団体・選手表彰」が開催されました。祝賀会には、深町院長、伊藤学長、武藤前学長をはじめ、本郷学生部長、江泉体育会長ならびに体育会各部長、表彰団体監督や表彰学生、各部の代表者が出席し、以下の団体・選手が表彰されました。



2007年度体育会表彰団体・選手 ※学年は2007年度のものです。

【最優秀団体】	
バスケットボール部(男子)	第83回関東大学バスケットボールリーグ戦1部優勝 第59回全日本学生バスケットボール選手権大会優勝
バレーボール部(女子)	春季関東大学女子1部バレーボールリーグ戦1部優勝 第26回東日本大学バレーボール選手権大会優勝 全日本バレーボール大学男女選手権大会3位
【最優秀選手】	
広瀬 健太 (国際政治経済学部4年)	バスケットボール部(男子) 第83回関東大学バスケットボールリーグ戦(最優秀選手賞) 全日本学生バスケットボール選手権大会(最優秀選手賞・アシスト王) 第30回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会(日本代表)
熊谷 宜之 (文学部4年)	バスケットボール部(男子) 第83回関東大学バスケットボールリーグ戦(優秀選手賞) 全日本学生バスケットボール選手権大会(優秀選手賞)
荒尾 岳 (国際政治経済学部3年)	バスケットボール部(男子) 第83回関東大学バスケットボールリーグ戦(優秀選手賞) 第30回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会(日本代表)
内田 暁子 (経営学部4年)	バレーボール部(女子) 春季リーグ戦優勝(ベストスコアラー賞・最優秀選手賞) 第26回東日本大学選手権大会優勝(ベストスコアラー賞・最優秀選手賞) 第2回東西インカレ(ベストスコアラー賞) 秋季リーグ戦3位(ベストスコアラー賞) 全日本バレーボール学生選抜男女東西対抗戦3位(最優秀選手賞)
川上 佳奈 (文学部4年)	バレーボール部(女子) 春季リーグ戦優勝(リベロ賞) 秋季リーグ戦3位(リベロ賞) 第26回東日本大学選手権大会優勝(リベロ賞) 全日本バレーボール学生選抜男女東西対抗戦3位(リベロ賞・ファインプレー賞)
板倉 史也 (経済学部4年)	レスリング部 デーブ・シュルツ記念国際大会(66kg級5位) 国民体育大会(66kg級2位) 全日本大学グレコローマンスタイル選手権大会(66kg級優勝)
【優秀団体】	
空手道部(女子)	第51回全日本学生空手道選手権大会女子団体形 準優勝
拳法部	第1回東日本大学女子選手権大会 優勝
卓球部(女子)	第77回全日本大学対抗卓球選手権大会 優勝
チアリーディング部	JAPAN CUP 2007 チアリーディング日本選手権大会 規定 Aチーム 1位
バドミントン部(女子)	関東学生バドミントン秋季リーグ戦 1部優勝
【優秀選手】	
齋藤 太嘉志 (法学部4年)	居合道部 第40回東日本学生居合道大会優勝 第22回全日本学生居合道大会3位
上田 大介 (国際政治経済学部3年)	空手道部 第35回関東学生空手道選手権大会優勝
佐藤 恭子 (国際政治経済学部4年)	空手道部 第51回全日本学生空手道選手権大会3位
小窪 哲也 (経済学部4年)	硬式野球部 第36回日米大学野球選手権大会代表 東都大学春季リーグ戦(首位打者・ベストナイン)
小林 賢司 (文学部4年)	硬式野球部 ロッテルダム・ワールドボート・トーナメント出場
小池 翔大 (文学部1年)	硬式野球部 東都大学春季リーグ戦(ベストナイン) ロッテルダム・ワールドボート・トーナメント出場
阿部 恵 (文学部4年)	卓球部(女子) 関東学生秋季リーグ戦(優秀選手賞・特別賞) 第74回全日本学生卓球選手権大会(ダブルス)優勝
山崎 知春 (文学部4年)	卓球部(女子) 第24回ユニバシアード競技大会日本代表・女子団体準優勝・ダブルス ベスト8・シングルベスト16 第77回全日本大学対抗卓球選手権大会敢闘賞 第74回全日本学生卓球選手権大会(ダブルス)優勝
牧野 洋介 (法学部3年)	軟式野球部 東都大学軟式野球連盟春季リーグ (最優秀投手・優秀選手・ベストナイン・最多奪三振・最多勝) 東都大学軟式野球連盟秋季リーグ (最優秀投手・ベストナイン・最多奪三振・最多勝・ノーヒット・ノーラン) 全日本大学軟式野球連盟主催 日華親善大学軟式野球国際大会(日本代表)
小林 高晃 (経営学部2年)	バスケットボール部(男子) 第83回関東大学バスケットボールリーグ戦(優秀選手賞) 全日本学生バスケットボール選手権大会(優秀選手賞)

渡邊 裕規
(国際政治経済学部2年)
神 ゆかり
(文学部4年)
土田 望未
(文学部3年)
千葉 智枝美
(経済学部2年)
富田 雄大
(経営学部2年)

横田 竜一
(国際政治経済学部4年)
河野 隆太
(経済学部2年)

【敢闘団体】

硬式庭球部(男子)
硬式庭球部(女子)
射撃部
ソフトテニス部(女子)
卓球部(男子)
軟式野球部
バレーボール部(男子)
フェンシング部
ラグビー部
パワーリフティング部
ラクロス同好会

【敢闘選手】

田辺 舞子
(文学部4年)
小野田 賢
(文学部1年)
佐野 公彦
(文学部3年)
宮原 愛美
(文学部2年)
昆 詠理子
(文学部1年)
福井 真紀子
(文学部1年)
宮竹 由紀
(経済学部4年)
西村 彩
(国際政治経済学部4年)
大野木 夏子
(経営学部2年)
藤井 蓉子
(経営学部3年)
松本 共也
(経営学部1年)
一柳 風未
(文学部1年)

金 輝一
(文学部4年)
白木 綾二
(国際政治経済学部2年)
岡崎 隼也
(国際政治経済学部3年)
荒井 輔
(法学部2年)

城下 麗奈

(経済学部3年)

【奨励選手】

大槻 寿晃
(法学部1年)
本間 ちさと
(経済学部1年)
川船 愛美
(経済学部1年)
丸山 明子
(経営学部2年)

バスケットボール部(男子)
第30回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会(日本代表)
バドミントン部(女子)
関東学生バドミントン秋季リーグ戦(最優秀選手賞)
バレーボール部(女子)
東日本大学バレーボール選手権大会優勝(セッター賞)
バレーボール部(女子)
東日本大学バレーボール選手権大会優勝(サブ賞)
パワーリフティング部
第83・84回関東学生パワーリフティング選手権大会(56kg級)優勝
第34回全日本学生パワーリフティング選手権大会(56kg級)3位
陸上競技部
東京箱根間往復大学駅伝競走大会関東学連選抜 10区4位
レスリング部
JOC杯ジュニアオリンピックカップ(グレコローマン) 120kg級準優勝
明治乳業全日本選抜選手権大会120kg級3位
全日本学生選手権120kg級準優勝、全日本大学選手権大会(グレコローマン) 120kg級3位
JOC杯ジュニアオリンピック(グレコローマン) 120kg級3位

関東大学テニスリーグ戦 4部優勝(3部昇格)
関東大学テニスリーグ戦 2部優勝
秋季関東学生ライフル射撃選手権大会 2部校5位
東都大学ソフトテニス秋季リーグ戦 優勝
秋季関東学生卓球リーグ戦 3部Aブロック優勝(2部昇格)
東都大学春季リーグ戦 準優勝(全日本大会出場)
関東大学バレーボール秋季リーグ戦 4部優勝(3部昇格)
関東学生フェンシングリーグ戦男子サーブル3部優勝(2部昇格)
東日本大学セブンス コンソレーション優勝
第34回全日本学生パワーリフティング選手権大会 4名出場
ルネッサンスオープン(男子) 2勝1分(決勝進出)

拳法部
東日本女子個人選手権大会準優勝
硬式庭球部(男子)
全日本学生テニス選手権大会ベスト16
少林寺拳法部
第44回少林寺拳法関東学生大会男子運用法の部優秀賞
少林寺拳法部
第41回少林寺拳法全日本学生大会女子3段以上の部敢闘賞
少林寺拳法部
第41回少林寺拳法全日本学生大会女子3段以上の部敢闘賞 段外の部敢闘賞
少林寺拳法部
第41回少林寺拳法全日本学生大会女子3段以上の部敢闘賞
水泳部
第83回日本選手権水泳競技大会(50mバタフライ) 4位
スキー部
第23回全日本学生アルペンチャンピオン大会優勝
ソフトテニス部(女子)
東都大学選手権大会 ダブルス優勝
ソフトテニス部(女子)
東都大学選手権大会 ダブルス優勝
ハンドボール部
関東学生 ハンドボール秋季リーグ戦 2部リーグ 得点王
フェンシング部
東京都ジュニア選手権大会(女子エペ) 優勝
ナショナルチーム一次選考会(女子エペ) 最終選考会進出3位
ボクシング部
第60回関東大学ボクシングトーナメント戦(4部ライト級) 優勝
ボクシング部
第60回関東大学ボクシングトーナメント戦(4部ライトウェルター級) 優勝
陸上競技部
第86回関東学生陸上競技対校選手権大会男子二部800m 優勝
陸上競技部
第86回関東学生陸上競技対校選手権大会男子二部1500m 優勝
第192回日体大記録会5000m青学新記録
陸上競技部
第18回関東学生新人陸上競技選手権大会女子100mハードル 決勝1位

漕艇部
東日本新人選手権男子シングルスカル優勝
バドミントン部(女子)
関東学生バドミントン新人選手権(シングルス) 優勝
陸上競技部
第18回関東学生新人陸上競技選手権大会女子100mハードル 決勝2位
レスリング部
JOC杯ジュニアオリンピック(グレコローマン) 63kg3位



ことを願うとともに、体育会活動が学院全体の活性化につながることを期待しています。
(2007年度体育会会長 江泉 芳信 法務研究科教授)



伊藤 敬也
法学部 専任講師

誌 上 公 開 講 座 No. 42

青山スタンダード フレッシュャーズ・セミナー 「ルールをかたる」

本学に着任した最初の年からフレッシュャーズ・セミナーを担当し、今年度で3年目になります。フレッシュャーズ・セミナーは、受講生だけでなく担当教員にとっても、通常の講義では直接に触れ合うことの少ない様々な学部 of 学生たちと少人数のセミナー形式で意見を交換できる貴重な機会です。例年ほぼすべての学部からの参加者がいます。

「ルールをかたる」というテーマを設定したのはふたつの理由があります。ひとつは、コミュニケーションにかかわるもの。もうひとつは、国民の司法参加にかかわるものです。

日常生活のなかで経験する問題の多くは、コミュニケーション不足から生じています。友人や恋人、家族とのいさかい、さらには、いじめなどの社会問題に対し、解決策として「よく話し合え」といわれることがあります。「よく話し合う」とは一体どういうことなのでしょう。

われわれは、人によって考えの違うことを頭では理解しています。しかし他方で、KY(空気を読めない)という言葉が一時の流行語として一人歩きしているように、大人も子どもも、わざわざ話し合わなくても共通しているはずの(あるいは共通しているべき)考えや感覚があるとも思っています。お互いに共通していると思っているものが一致していれば問題



ありません。問題なのは、お互いに共通していると思っているものが実は違っていたときです。結果としての食い違いによって信頼を裏切られたという怒りが生まれ、怒りは紛争を生んでしまうのです。このような不幸を避けるには、自分自身の常識という感覚を言葉にして、それが自分以外の人と一致しているかどうかを確認する経験を積み重ねていかなければなりません。この常識の確認作業をするうえで非常に有益なのがルールを題材に議論することです。各人の考え自体を題材に議論すると、ディベートの技術は向上しても、人によって違うのは当たり前だという寛容さ、ある意味での無責任さ、が発揮され、本当は存在して

いるはずの衝突が適当に回避されてしまいます。ルールが単なる意見と異なるのは、あるひとつの立場が共同体の構成員のすべてに強制されるということです。自分と違う考えに従うことを強制されたとしても、受け入れられるのかどうかを真剣に検討せざるを得ないのが、ルールを題材にした議論なのです。

たとえば「本当の意味での男女差別をなくするために女性専用車両や各種レディースデーの設定を禁止する」というルールが提案された場合に「そういう考えもある」と受け流すことはできず、自分自身がそのようなルールの課された社会で生きるかどうかを決めなければなりません。他人との不一致を自分自身の問題として受けとめるには、ルールを題材として議論することが近道です。

また、国民による司法参加のひとつとして、2009年から刑事裁判での裁判員制度が始まります。裁判員に選ばれると、ルールにもとづき他人の行為について何らかの判断をするよう求められます。そこで冷静な判断を下すためには、法学部の学生に限らず多くの人が、ルールをめぐる議論に参加した経験をもつべきでしょう。

このフレッシュャーズ・セミナーは、弁論術を養成する場ではありません。参加者一人ひとりが他人あるいは社会の問題を自分のこととして受けとめ、より穏やかでより幸せな日常を送るためのきっかけとなることを期待しています。



2008年度 (旧 父母懇談会) ペアレンツウィークエンドのお知らせ

青山学院大学では、大学後援会事業の一環として保護者の皆様との連絡を密にし、ご子女に関する相談や本学に対するご意見等をうかがい、それらを大学運営に反映させる目的をもって、懇談会を開催しています。今年度の開催日程は下表のとおりです。対象となる保護者の方には、改めてご案内いたします。

より多くの保護者の皆様の参加をお待ちしております。

首都圏

開催日	学 部	開催キャンパス
6月14日(土)	経済学部／国際政治経済学部	青 山
6月21日(土)	文学部／法学部	
6月28日(土)	経営学部／総合文化政策学部	
10月11日(土)	理工学部／社会情報学部	相模原

開催時間●13:00～16:00(学部によって時間が異なる場合があります)
対象:東京・埼玉・千葉・神奈川各都県在住1～3年生の保護者の方。

地区

地 区	開催都市	開催日	会 場
北 海 道	札幌市	8月9日(土)	ホテルオークラ札幌
北 海 道	函館市	8月10日(日)	ロワジールホテル函館
岩 手 県	盛岡市	9月7日(日)	ホテルメトロポリタン盛岡
山 形 県	山形市	9月6日(土)	山形国際ホテル
茨 城 県	水戸市	8月31日(日)	三の丸ホテル
長 野 県	松本市	9月14日(日)	松本東急イン
新 潟 県	新潟市	8月23日(土)	新潟グランドホテル
石 川 県	金沢市	8月30日(土)	ANAクラウンプラザホテル金沢
静 岡 県	浜松市	8月3日(日)	オークラアクティホテル浜松
愛 知 県	名古屋市	7月19日(土)	キャッスルプラザ
大 阪 府	大阪市	8月3日(日)	ホテルグランヴィア大阪
広 島 県	広島市	8月2日(土)	ホテルグランヴィア広島
島 根 県	松江市	7月13日(日)	松江東急イン
愛 媛 県	松山市	7月19日(土)	松山全日空ホテル
高 知 県	高知市	8月24日(日)	三翠園
福 岡 県	福岡市	8月10日(日)	ホテルニューオータニ博多
佐 賀 県	佐賀市	8月9日(土)	ホテルニューオータニ佐賀
大 分 県	大分市	7月27日(日)	大分全日空ホテルオアシスタワー
鹿児島県	鹿児島市	7月6日(日)	鹿児島東急ホテル

開催時間●10:30～15:00(会場によって時間が異なる場合があります)
対象:首都圏以外の全道府県在住、全学年の保護者の方。お住まい近くの会場に限らず、どの会場にご出席いただいても結構です。

お問い合わせ先: 庶務部庶務課 ペアレンツウィークエンド 担当
TEL. 03-3409-8568

前期チャペル・ウィーク

5月19日(月)～24日(土)は前期チャペル・ウィークです。チャペル・ウィークは、春と秋の年2回、各界で活躍中のクリスチャンをお招きして大学礼拝でお話をしていただく特別伝道週間です。



この期間は普段の大学礼拝とは異なり、教会の牧師や宣教師だけでなく、一般企業の実業家の方、社会福祉の現場で活動されている方、教育に携わっている方、音楽家の方などが、それぞれの分野での豊富で貴重な経験をもとに、ご自身のお働きとキリスト教との関わりについて語ってくださいます。聖書に示される神様の愛と慈しみを、より身近に具体的なものとして受け止めることができるでしょう。

宗教センター主催

青山学院フィリピン訪問プログラム

青山学院では長年、各部の諸団体や個人が、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン(以下CFJ)とのかかわりの中で、貧困のために教育を受ける機会が奪われているフィリピンの子どもたちの教育支援を続けてきています。この訪問プログラムは、CFJの協力のもと、支援先の子どもたちを訪ねて彼らと直接出会い、その生活に触れることによって世界が抱える貧困の問題を目の前の隣人の問題として考えていこうとするもので、2003年度から宗教センター活動として行われています。2008年は3月18日(火)～28日(金)に実施されました。

プログラムは、前半は大学生(4名、引率教員1名)だけでしたが、後半には初等部(児童4名、引率教員2名)・中等部(生徒4名、引率教員2名)チームが合流して展開され、学院関係者が支援している地域のうち4ヶ所を訪問し、ホームステイをしたり、地域の人々や子どもたちとの有意義な交流を行ったりしました。

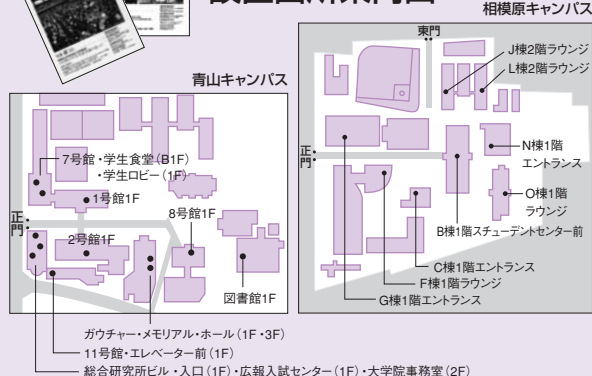
参加者は、事前学習として、世界の貧困やフィリピンの事情についての学びを積み重ね、それらを土台にして、「愛」「奉仕」「責任」「自由」「生きる」「豊かさ」「援助」「幸せ」といった課題をフィリピンの人々との直接的なかわりを通して学んできました。人間が生きていく上で、最終的に必要なものはいったい何なのか、便利な日本社会の中で忘れてしまっている大事なことはないのかなど、人間の根本問題に目を向けざるを得ないプログラムでした。参加者はそれぞれにいくつかの個別の課題を設定して参加しましたが、それらへの答えを見出してきたというよりも、結局さらなる課題を多く示されて帰国することになりました。ニュースや数値でしか見てこなかった貧困の問題や社会の様々な矛盾を実際に肌で感じるようになった11日間でした。

今回はまた、日程がイースター(復活祭)と重なったため、カトリック教会のミサ、プロテスタント教会のイースター礼拝にも出席することができ、キリスト教文化や信仰的遺産に触れるよい機会ともなりました。

今後各キャンパスにおいて、参加者による報告会の開催を計画します。詳しくは宗教センターまでお問い合わせください。



AGUニュース専用スタンド 設置箇所案内図



2008年度 進学相談会開催日程

青山学院大学では、本学受験を希望する受験生に情報を提供し、本学への理解を深めていただくため、全国各地で開催される進学相談会に参加しています。開催日程は以下の通りです。

6/13(金)	函館	ベルクラシック函館	6/12(木)	静岡	ツインメッセ静岡
6/14(土)	札幌	アステ45	6/14(土)	名古屋	デザインセンタービル
6/28(土)	札幌	北海道経済センター	7/6(日)	名古屋	名古屋国際会議場
6/5(木)	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡	10/11(土)	静岡	パルシェ
6/20(金)	郡山	ホテルハマツ	6/21(土)	大阪	梅田クリスタルホール
6/21(土)	福島	エスバル福島	9/6(土)	神戸	神戸サンボーホール
6/21(土)	仙台	AER(仙台市情報・産業プラザ)	5/29(木)	岡山	岡山コンベンションセンター
6/3(火)	水戸	水戸プラザホテル	5/31(土)	広島	基町クレド
6/4(水)	宇都宮	マロニエプラザ	7/6(日)	広島	広島国際会議場
5/30(金)	川越	川越プリンスホテル	9/10(水)	高松	全日空ホテルクレメント高松
5/31(土)	池袋	サンシャインシティ ワールドインポートマート	9/11(木)	徳島	ホテルクレメント徳島
6/2(月)	渋谷	渋谷エクセルホテル東急	9/13(土)	高知	高知市文化プラザかるぼーと
6/2(月)	大宮	大宮ソニックシティ	9/14(日)	松山	愛媛県県民文化会館
6/14(土)	横浜	横浜新都市ビル(横浜さごう)	6/5(木)	鹿児島	鹿児島商工会議所ビル
6/15(日)	千葉	千葉市文化交流プラザ	6/6(金)	熊本	ホテル日航熊本
7/12(土)	池袋	サンシャインシティ ワールドインポートマート	6/7(土)	福岡	スカラエスパオ
7/27(日)	横浜	パシフィコ横浜	7/5(土)	福岡	エルガーラ
6/3(火)	長野	ビッグハット	9/16(火)	長崎	ベストウエスタンプレミアホテル長崎
6/4(水)	甲府	ベルクラシック甲府	9/29(月)	宮崎	MRT micc
7/10(木)	新潟	ホテル新潟	7/10(木)	那覇	おきでんふれあいホール
9/10(水)	金沢	ANAクラウンプラザホテル金沢	7/11(金)	那覇	おきでんふれあいホール

※開催日、会場等は変更になる場合がありますので、広報入試センター広報課にお問い合わせください。
※進学相談会の全日程は本学ホームページでご覧いただけます。

2008年度 オープンキャンパス

■オープンキャンパス(受験生、高校・2年生、保護者のご来場もお待ちしております)

相模原キャンパス(全学部対象)

●7月13日(日) 10:00~16:00

青山キャンパス(全学部対象)

●7月20日(日) 10:00~17:00

●9月14日(日) 10:00~16:00

(青山キャンパスは女子短期大学同日開催)

開催内容

歓迎礼拝／大学紹介／入試概要紹介／全学共通教育システム「青山スタンダード」概要紹介／学部学科紹介(「教育人間科学部」「経営学部マーケティング学科」(2009年4月設置・開設予定)概要紹介を含む)／個別進学相談／留学説明会／大学紹介DVD上映／資料閲覧等を予定しています。



★オープンキャンパス学生ボランティア募集中!!

20,000名以上の来場があるオープンキャンパスにて、受付・案内などの作業をボランティアでお手伝いいただける学生(本学学生のみ)を募集しています。募集要項の配布、申し込み受付は、学生部学生課(青山キャンパス)および学生センター・学生生活グループ(相模原キャンパス)にて、6月6日(金)まで行っています。ぜひご協力ください。

■社会人のための大学・大学院説明会

青山キャンパス●7月26日(土) 14:00~17:30(受付:13:45~17:00)

内容:社会人・職業人対象の入学試験を実施する学部学科・研究科専攻の紹介、教員・在学生との懇談等を予定しています。

※オープンキャンパスの開催内容等については、本学ホームページでご確認ください。
お問い合わせ先 広報入試センター広報課 TEL. 03-3409-8626

大学紹介パンフレットのデジタルパンフレットをHP掲載

大学紹介パンフレットおよびビデオが下記アドレスにてご覧いただけます(内容の一部抜粋)。なお、2009年度版については6月以降にアップロード予定です。

<http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/reference/index.html>

News Index 2008.2~4

2008年2~4月に大学ウェブサイトに掲載されたニュースの主なタイトルを掲載しています。

08年2月

- 2008年度オープンキャンパスの日程が決まりました
- 第13回「前田純孝賞」学生短歌コンクールにおいて、日本文学科3年の佐藤菜穂子さんが新潟県教育委員会賞、山本恵さんが神戸新聞社賞を受賞
- 「青山学院スタイル」に、高嶋ちさ子さんが登場
- 石川莉子さん(理・院前1年)がヒューマンインターフェース学会第9回学術奨励賞(2008年度)を受賞

08年3月

- 秋光純理工学部教授のグループが、高エネルギー加速器研究機構のグループと共同で、2つの異なる超伝導状態が共存する典型物

- 質を発見しました
- 青山学院の「ペリーホール」(1931年)、「間島記念館」(1929年)が国登録有形文化財に登録されました
- 「青山学院スタイル」に、松澤建青山学院理事長が登場
- 本学は、財団法人大学基準協会による2007(平成19)年度大学評価ならびに認証評価において、「適合」の認定を受けました

08年4月

- 第2回ESSCで7名の本学学生の作品が、優秀賞などに選ばれました
- 荒川俊宏さん(理・経シス4年)が日本経営工学会、平成19年度優秀学生賞を受賞
- 米山聡理工学部(機械創造工学科)准教授が、平成19年度日本非破壊検査協会奨励賞を受賞

アドバイザー・グループ紹介 16

音を識り、自分を識り、世界を識る 〈吉仲アド・グル〉



文学部教育学科
吉仲 淳 准教授

我が吉仲アド・グルは、通称「おとグル」といいます。我々の生活環境におけるさまざまな音を採取し、録音した音を聴きながらその環境についてのレポートを作成したり、あるいはそのフィールドレコーディングした環境音を用いて楽曲制作を行ったり、または、おそらく日本でも数少ない即興演奏のオーケストラを構成し、音の海にグループ一丸となって没入したりと、実験的な音楽活動を行ってきました。

大きなテーマは「表現世界へのEXODUS」(かっこいい!!)。音楽理解やテクニック、経験などは二の次で集まった「おとグルメンバー」が、音によって表現世界へ誘われ、自己を解放する喜びを追究して

いきます。自分自身が何をしたいのか?

を明確に示すことのできる、言い換えれば、人間としての生きるセ

ンスを磨くことを目指しています。

現在は、Aoyama Electro-

Acoustic Orchestraという

比較的大きな構成のバンドに

おいて、多彩なアプローチによる即興演奏を主体に活動中です。

「表現としての音楽の実験」と「学

問としての音楽への挑戦」をメ

ンバー全員で楽しんでいます。



一松海岸で行われた「ビーチでの作曲講座」

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

- なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

青山キャンパス→学生部厚生課

事務取扱窓口

相模原キャンパス→学生センター・学生生活グループ